

(商業実践専門課程 医薬サポート科医療事務・化粧品アドバイザー／メディカルサポートコース 令和8年度)

分類	必	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次学期	授業コマ数	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業との連携
										講義	演習	実験実習実技	校内	校外	専任	兼任	
○				コミュニケーション基礎	自己を見つめ、自己の持ち味・価値観を築く	1前	15	30	1	○	△		○		○		
○				コミュニケーション応用	他者を容認し、必要な自分になるための行動力を培う	1後	15	30	1	○	△		○		○		
○				※ライフプランニング論	就職直前の知識と心構えを学ぶ	2後	15	30	1	○			○		○	○	
○				ケア・コミュニケーション	ケアが必要な方へのコミュニケーション力の養成	2後	15	30	1	○	△		○		○		
○				ビジネス実務A	社会・企業から求められるビジネス能力の養成	1前	15	30	1	○	△		○		○		
○				ビジネス実務B	同上	1後	15	30	1	○	△		○		○		
○				基本マナーⅠ	サービスのために必要なマナーの習得	1前	15	30	1	○	△		○		○		
○				基本マナーⅡ	煎茶・華から情操・想像力の養成	1後	15	30	1	○	△		○		○	○	
○				栄養学	正しい食生活を実践する知識と能力の養成	2後	30	60	3	○	△	△	○	△	○	○	○
○				パソコン基礎A	Word基礎を学ぶ	1前	15	30	1	○	△		○		○		
○				パソコン基礎B	Excel基礎を学ぶ	1後	15	30	1	○	△		○		○		
○				コンピュータ概論	医療のIT化への対応知識を学ぶ	1後	15	30	1	○	△		○		○		
○				PP	プレゼンテーションの資料作りと発表能力の養成	2後	15	30	1	○	△		○		○		
○				POP	POP手書きの基礎を学ぶ	1後	15	30	1	○	△		○		○		
○				POPⅡ	POP手書きの基礎を基に他との差別化を学ぶ	2前	15	30	1	○	△		○		○		
○				基礎ペン字	ボールペンの基本的書法習得	2前	15	30	1	○	△		○		○		
○				応用ペン字	応用書法・マナー習得	2後	15	30	1	○	△		○		○		
○				スポーツ健康学	健康な身体づくりと仲間との協調	1前	30	60	1			○	○	○	○		○
○				アロマセラピー	身体・心のケアのための知識の習得	2前	15	30	1	○	△		○		○	○	○
○				ボディセラピー	フットリフレクソロジーの施術方法の習得	2前	15	30	1			○	○		○	○	○
○				基礎学習講座	基礎的な人文・社会・自然科学分野の学習を行う	1後 2前	30	60	2	○			○		○		
○				就職支援講座	就職活動への心構えを構築し、準備を行う	1通	30	60	2	○			○		○		
		○		※ 総合学習講座	各科目の講義、演習を総合的・横断的に学習する	2後	120	240	0~	○	△	△	○	△	○	○	
○				医療事務A	医科医療事務知識の習得	1前	75	150	4	○	△		○		○		
○				医療事務B	同上	1後	45	90	2	○	△		○		○		
○				医療事務C	調剤事務知識の習得	1後	15	30	1	○	△		○		○		
○				医療事務D	歯科医療事務知識の習得	2前	45	90	3	○	△		○		○		
○				調剤事務	保険調剤の仕組みを学ぶ	1通	30	60	2	○	△		○		○		
○				医事総論	医療現場での実践的接遇を学ぶ	2前	15	30	1	○	△		○		○		
○				医療秘書	医療秘書の役割を学ぶ	1後	15	30	1	○	△		○		○		
○				医療概論	医療とは何かを学ぶ	1前	15	30	1	○	△		○		○		
○				医療保障Ⅰ	医療保険制度を中心に医療費のしくみを学ぶ	1前	15	30	1	○	△		○		○		
○				医療保障Ⅱ	介護保険法を中心に知識習得	1後	15	30	1	○	△		○		○		
○				基礎医学Ⅰ	解剖学・生理学の基本を学ぶ	1前	30	60	2	○	△		○		○		
○				基礎医学Ⅱ	臨床病理学・病態学の基本を学ぶ	1後	15	30	1	○	△		○		○		
○				基礎医学Ⅲ	同Ⅰ・Ⅱを深める	2前	15	30	1	○	△		○		○		
○				地域医療福祉	身近な地域の医療福祉を知る	2前	15	30	1	○	△		○		○		
○				サプリメント概論(予防医学)	病気予防とセルフケアに関わる知識習得	2前	15	30	1	○	△		○		○		
○				健康管理学	健康管理に関する正しい知識の習得	2後	15	30	1	○	△		○		○		
○				医薬品Ⅰ	医薬品の基礎的・専門的知識の理解	1前	30	60	2	○	△		○		○		
○				医薬品Ⅱ	医薬品の有効成分の理解と応対力の習得	1後	30	60	2	○	△		○		○		
○				登録販売者総論Ⅰ	医薬品販売知識を深める	2前	45	90	4	○	△		○		○		
○				登録販売者総論Ⅱ	医薬品のまとめと実習体験をまとめる	2後	15	30	1	○	△		○		○		
○				化粧品Ⅰ・Ⅱ	化粧品に基礎的・専門的知識の理解	1通	30	60	2	○	△		○		○		
○				化粧品Ⅲ・Ⅳ	化粧品の有効成分の理解と応対力の習得	2通	30	60	2	○	△		○		○		
○				患者看護概論Ⅰ	患者と疾患の理解を深める	2前	15	30	1	○	△		○		○	○	○
○				患者看護概論Ⅱ	同上	2後	15	30	1	○	△		○		○	○	○
○				手話	医療機関における手話の役割と知識を学ぶ	2後	15	30	1	○	△		○		○		
○				医事コンピュータ	外来・入院診療の入力方法習得	1後	30	60	1			○	○		○		
○				インターンシップ	現場での職業体験	1後	40	80	1			○		○		○	○
		○		※ 企業実習Ⅰ	内定前提での企業実習	2後	120	0 240	0~ 3				○		○		
		○		※ 企業実習Ⅱ	内定前提での企業実習	2後	120	0 240	0~ 3				○		○		
		○		※ 企業実習Ⅲ	内定前提での企業実習	2後	120	0 240	0~ 3				○		○		
○				卒業研究	深めたいテーマ選定から論文作成、発表	2後	120	240	4			○		○			
合計					54 科目			2330~3290	単位時間(72~89単位)								

※授業時数欄の1時間は90分授業であるので、1単位時間(50分)換算

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
修業年限が2年以上で、修得単位が65単位以上。		1学年の学期区分	前・後期
		1学期の授業期間	15週

科名	医薬サポート科	コース名	医療事務・化粧品アドバイザー	学年・クラス	1D		
講義名	医療事務 A		回数	講義期間	曜日・時限	教室	
			75	通年	月1.2.4、木2、金2	302	
担当者	滝澤 幸子		実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数	備 考
			有	必修	講・演	5	
実務経験のある教員による授業内容	医療事務協会においてレセプト作成および講師として勤務した経験がある教員が、医療関連の事務において教育を行う科目。						

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)	
医療事務の重要な仕事である医療費の請求を、診療報酬明細書(レセプト)の作成を中心に実習しながら学びます。	No.	日付 授業内容
電子カルテの導入で、手書きのレセプトを作成する医療機関は現在ほとんどありませんが、電子化に関わらず基本の算定や保険知識などは必要となります。	1	<4/9~8/3> 後期10月下旬に検定試験となるため、4~10月で仕上げます。
実際の現場でも使用されている「診療報酬点数早見表」の利用方法も同時に学びます。	2	オリエンテーション
	3	医療請求事務の基本 診療報酬明細書(レセプト)の基礎知識 点数算定とレセプトの書き方
	4	点数算定の原則 診察料 医学管理料 在宅医療
	5	投薬 注射 処置
	6	リハビリテーション 手術 麻酔 検査
	7	画像診断 精神専門療法 放射線治療
	8	
	9	以上についての理解と、外来レセプト作成を進捗状況に応じて実施していきます。
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
	評価	
	試験	

科名	医薬サポート科	コース名	全コース	学年・クラス	1D	
講義名	基礎医学 I		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			30	前期	月3・火3	302
担当者	島田 渉		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
			有	必修	講義	2
実務経験のある教員による授業内容		医療従事者として検査・研究機関に勤務した経験を持つ教員が、基礎医学ほかについて教育を行う科目。				

医療関係従事者、医療界に関与する人たちは、基本的な解剖と、生理(身体の構造と働き)について十分な知識をもっていることが求められるため、解剖生理学に関連補足を取り入れ知識を深める。	No.	日付	授業内容	
	1	4/13	細胞・染色体	
	2	4/14	組織・神経系の区分	
	3	4/20	脳脊髄膜・中枢神経全体像・大脳機能局在・末梢神経・自律神経	
	4	4/21	眼球の構造・目の主な病気	
	5	4/27	耳	
	6	4/28	心臓(構造、働き、刺激伝導系、循環)心拍数と血圧	
	7	5/11	心臓復習・心臓の疾患・動脈と静脈	
	8	5/12	毛細血管・リンパ系・循環器テスト	
2. 目標検定・資格	9	5/18	循環器テスト解説・血液の組成・血液成分・血漿・赤血球	
医療秘書検定(医療事務コース) 医薬品登録販売者(両コース)	受験対象	10	5/19	血液(白血球 血小板 血液の凝固)
	全員	11	5/25	血液型・貧血
実施日	秘書11/7(土)登販 2027. 9	12	5/26	中間テスト
3. 学習上の留意点	13	6/1	血液テスト・テスト解説	
授業は意欲的に参加し、解剖生理学部門は、ノートに取りまとめることが大切です。 別途配布する資料は正しく整理して必ず保管しておくこと。 日常生活においても身体の各部分の名称や働きを意識する。	14	6/2	骨①(全身骨格など)	
	15	6/8	骨②(頭部の骨、椎骨、骨の疾患、関節)	
	16	6/9	筋系	
	17	6/15	腎臓・尿路の形態と機能・腎・泌尿器系の病態	
	18	6/16	腎臓テスト・内分泌系(フィードバック機構、視床下部、下垂体、甲状腺)	
	19	6/22	内分泌系(副甲状腺、膵臓、副腎、卵巣、精巣)	
	4. テキスト	20	6/23	内分泌系の疾患・まとめ・内分泌テスト
改訂 基礎医学(建帛社)	21	6/29	呼吸器系(解剖、構造と機能)	
	22	6/30	呼吸器系(疾患)、テスト	
	23	7/6	消化器系① 機械的消化と化学的消化	
5. 成績評価の方法・基準	24	7/7	消化器系②(胃 小腸 大腸)	
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は、追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもって、C評価とする	25	7/13	消化器系③ 消化腺(唾液腺、肝臓、胆嚢、膵臓)	
	26	7/14	口腔内の疾患、食道の疾患、胃の疾患	
	27	7/21	腸の疾患 肝臓の疾患 期末の対策①	
	28	7/27	生殖器系・まとめ	
	29	7/28	まとめ	
	30	8/3	期末試験	
	評価 試験	2		

科名	医薬サポート科	コース名	全コース	学年・クラス	1D
講義名	コミュニケーション基礎		回数	講義期間	曜日・時限
			15	前期	火1
担当者	野村 恵美		実務経験の有無	必修・選択	授業形態
			有	必修	講・演
実務経験のある教員による授業内容	メディア出演や執筆、イベント司会、取材などを通し日頃から「人と関わること」に向き合う現役のフリーアナウンサーが、「伝える」「聴く」「関わる」をテーマに講義する。日々の生活を豊かにするためのコミュニケーション能力について考える。				

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)				
コミュニケーションとは、自分以外の誰かと意思の疎通を図ること。それをスムーズに行うことができる力を『コミュニケーション能力』と呼びます。 人に「伝え」、人から「受け取り」、人と「関わる」ことは、社会生活の中で必要不可欠です。社会人として、組織の中で働く一員として、コミュニティを構成するひとりとして、そして素敵な大人として、より良い人間関係を築き、人生を豊かなものにするために、「伝える」「受け取る」「関わる」能力=コミュニケーション能力を磨きましょう。 まずは仕事や人生で成功している人のコミュニケーション能力に注目した『EQ理論』をもとに、自分が普段人とどう関わっているかを客観的に知るところから始めます。そこから見えてくる「なりたい自分」について考えることで、自分らしいコミュニケーション能力の向上を目指します。	No.	日付	授業内容		
2. 目標検定・資格	なし		1	4/14	オリエンテーション(授業目的)と自己紹介 EQ受検の目的について
実施日			2	4/21	「EQI」(行動特性検査)受検
3. 学習上の留意点	講義とグループワークを交えて「コミュニケーション」の構造の理解、能力向上のための手法を学びます。セルフワーク、グループワークを通じて、知識・テクニックのインプットとアウトプットを重ねる体感型の実践的内容となります。ワークには「話す」「聴く」「チームに協力・貢献する」態度で臨んでください。また授業中はもちろん、学内やプライベートでも、コミュニケーション能力を開発する意欲を持ちましょう。		3	4/28	記憶と感情の関係は？
4. テキスト	EQIアセスメント、レジュメ		4	5/12	「EQI」のフィードバック コミュニケーションとEQの関わりについて ～EQと感情の関係～
5. 成績評価の方法・基準	必要出席率80%以上必須、評価は期末課題レポートと授業態度(40%以内)で総合的に評価する。 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定		5	5/19	「EQI」(行動特性検査)のフィードバック ～私の感情、強みと課題～
			6	5/26	EQを活用して「なりたい自分」を考える
			7	6/2	相手を知ろう&話そう 「THEインタビュー」
			8	6/9	より良いコミュニケーションはきっかけづくりから 「共通点を見つける」
			9	6/16	話し上手は聞き上手「聞く・訊く・聴く」
			10	6/23	コミュニケーションの手段は言葉だけじゃない！ 「想像力と身体を使って…」
			11	6/30	自分ってどんな人？ 「第一印象」「ジョハリの窓」
			12	7/7	自分の思い、どこまで伝わってる？ 「コミュニケーション・ギャップ」
			13	7/14	語彙力を身につけよう「言葉に宿るチカラ」
			14	7/21	EQと言語
			15	7/28	期末レポート
			評価試験		

科名	医薬サポート科	コース名	全コース	学年・クラス	1D	
講義名	就職支援		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	火2	301・203
担当者	山田 優子		実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数
				必須	講・演	1
実務経験のある教員による授業内容						

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)			
就職への心がまえをつくり、就職活動の準備をしていきます。		No.	日付	授業内容	
就職活動の前準備内容 ・就職活動に必要な基礎的能力を身に付ける ・基本的な職業理解 就職活動の概要を理解する ・職業・企業に関する情報を集める 情報を分析する りたい自分を知り希望の職業、会社を選定する ・履歴書の作成(前期3回) 面接試験の受け方(前期2回)		1	4/14	オリエンテーション EQと人間力	
		2	4/21	職業観・就業観	
		3	4/28	求められる人材とは	
		4	5/12	就活準備(企業研究・各種セミナー・合同企業説明会)ガイダンス	
2. 目標検定・資格		5	5/19	適性診断	
無	受験対象	6	5/26	業種理解、職業理解①	
実施日		7	6/2	職業理解②(IT関連)	
3. 学習上の留意点		8	6/9	職業理解③	
連続した授業ですので、100%の出席を目指してください。		9	6/16	履歴書とエントリーシートについて	
4. テキスト		10	6/23	職業興味検査／価値観検査／職業適性テスト(Gテスト)	
就職ノートファイル 必要に応じて関連資料・テキストを配布します。		11	6/30	履歴書の作成①	
5. 成績評価の方法・基準		12	7/7	履歴書の作成②	
必要出席率80%以上必須、評価は課題レポートと授業態度(40%以内)で総合的に評価する。 ※やむを得ず欠席した場合、授業内容に応じた課題を提出		13	7/14	履歴書の作成③	
A総合評価 90点以上 B総合評価 70点以上、90点未満 C総合評価 60点以上、70点未満 D総合評価 60点未満→単位不認定		14	7/21	面接試験の受け方①	
		15	7/28	面接試験の受け方②	
		評価 試験	4		

科名	医薬サポート科	コース名	全コース	学年・クラス	1D	
講義名	医薬品 I	回数	講義期間	曜日・時限	教室	
		30	前期	水1・木3	302	
担当者	島田 渉	実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
		有	必修	講義	2	
実務経験のある教員による授業内容		医療従事者として検査・研究機関に勤務した経験を持つ教員が、医薬品ほかについて教育を行う科目。				

<p>登録販売者とは、ドラッグストアや薬局などで、かぜ薬や鎮痛剤などの副作用のリスクが比較的低い一般用医薬品の販売ができる医薬品販売専門の医療系国家資格です。</p> <p>この公的な資格をクラス全員で合格を目指します。</p>	No.	日付	授業内容		
	1	4/9	登録販売者試験の概要(テキスト) 医薬品の本質		
	2	4/15	医薬品のリスク評価 健康食品 セルフメディケーション		
	3	4/22	医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因 副作用		
	4	4/23	不適正な使用と副作用 相互作用と飲み合わせ		
	5	4/30	小児・高齢者・妊婦、授乳婦への配慮		
	6	5/7	プラセボ効果 医薬品の品質 練習問題10問		
	7	5/13	適切な医薬品選択と受診勧奨 練習問題4問		
	8	5/14	サリドマイド訴訟、スモン訴訟、HIV訴訟		
2. 目標検定・資格	9	5/20	CJD訴訟 C型肝炎訴訟 薬害練習問題		
登録販売者	受験対象	10	5/21	第2章薬が働く仕組み 有効成分の吸収	
	全員	11	5/27	有効成分の代謝と排泄	
実施日	2027年/9月上旬		12	5/28	薬の体内での働き 剤型ごとの適切な使用方法
3. 学習上の留意点	13	6/3	ショック 重篤な皮膚粘膜障害 肝機能障害 偽アルドステロン症		
<p>医薬品の知識、特に薬効などは正確に覚えるためにも反復学習は必ず実施して下さい。</p> <p>自身の専門性のやりがいや、楽しさを理解し把握する時期ですので、受講にあたっては、積極的な参加を希望します。</p> <p>指定の教科書は授業の際、必ず持参すること。</p>	14	6/4	抵抗力の低下 出血傾向 精神神経系に現れる副作用		
	15	6/10	消化器系の副作用 呼吸器系の副作用		
	16	6/11	皮膚に現れる副作用		
	17	6/17	循環器系の副作用 泌尿器系の副作用 感覚器系の副作用		
	18	6/24	口腔 舌 唾液腺 咽頭 食道		
	19	6/25	胃 小腸		
4. テキスト	20	7/1	膵臓、胆嚢、肝臓		
登録販売者研修テキスト(薬事日報社ド・モ)プリント 登録販売者過去問題集	21	7/2	大腸、腸内細菌、肛門		
	22	7/8	呼吸器		
	23	7/9	循環器 白血球まで		
5. 成績評価の方法・基準	24	7/15	血小板 脾臓 リンパ系 腎臓		
<p>出席率80%以上必須、期末試験60%未満は、追試</p> <p>A 総合評価 90点以上</p> <p>B 総合評価 70点以上、90点未満</p> <p>C 総合評価 60点以上、70点未満</p> <p>D 総合評価 60点未満→単位不認定</p> <p>※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。</p> <p>※追試については80%の点数をもって、C評価とする</p>	25	7/16	泌尿器系 目		
	26	7/22	鼻 耳		
	27	7/23	骨格系 筋組織		
	28	7/29	脳や神経系の働き		
	29	7/30	まとめ		
	30	7/31(金)	期末試験		
	評価	5			
	試験				

科名	医薬サポート科	コース名	全コース	学年・クラス	1D		
講義名	ビジネス実務 I		回数	講義期間	曜日・時限	教室	
			15	前期	水2	301	
担当者	坂口 和江		実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数	備考
			有	必修	講・演	1	
実務経験のある教員による授業内容		事務職経験が3年以上ある教員が、ビジネス実務について教育を行う科目					

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)						
<p>現代の社会や企業から求められるビジネス能力の養成をはかります。社会人として必要となる基本的な知識・マナーを身につけ、就職活動に対応できるレベルに加え、入社後すぐに活躍できるスキルの習得をめざします。</p> <p>自ら考え、行動できること、また「わかる」ではなく「できる」ようになるための実践的な講座です。</p>		No.	日付	授業内容				
		1	4/15	導入・B検について 働く意識				
		2	4/22	第1章 キャリアと仕事へのアプローチ				
		3	5/13	第2章 仕事の基本となる8つの意識				
		4	5/20	第3章① 職場でのコミュニケーションの重要性				
		2. 目標検定・資格		5	5/27	第3章② ビジネスマナーの基本		
		ビジネス能力検定3級	受験対象 全員	6	6/3	第4章 指示の受け方と報告・連絡・相談		
		実施日	2027年1月試験週	7	6/10	第5章① 話し方の基本		
		3. 学習上の留意点		8	6/17	第5章② 職場でのことばづかい		
		<p>授業はさまざまなグループワークを導入した展開とするので、積極的な参加が不可欠となります。まずは、理解した内容はグループ全員が共有できるよう教えあうことが大切です。クラスメイトとコミュニケーションを取ることで、自分の意見を伝えることを意識的に行ってください。</p>		9	6/24	第5章③ 聞き方の基本		
				4. テキスト		10	7/1	第6章① 来客対応・面談のマナー
				ビジネス能力検定3級ジョブパス公式テキスト2026年度版(日本能率協会マネジメントセンター)	11	7/8	第6章② 名刺交換・訪問の基本	
		5. 成績評価の方法・基準		12	7/15	第6章③ 訪問の約束(アポイントメント)		
		<p>出席率80%以上必須、期末試験60%未満は、追試</p> <p>A 総合評価 90点以上</p> <p>B 総合評価 70点以上、90点未満</p> <p>C 総合評価 60点以上、70点未満</p> <p>D 総合評価 60点未満→単位不認定</p> <p>※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。</p> <p>※追試については80%の点数をもって、C評価とする</p>		13	7/22	第7章 会社関係のつきあい		
				14	7/29	期末テスト		
15	7/31 (金)			前期まとめ				
評価 試験								

科名	医薬サポート科	コース名	全コース	学年・クラス	1D
講義名	医療概論	回数	講義期間	曜日・時限	教室
		15	前期	水4	302
担当者	島田 渉	実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
		有	必修	講義	1
実務経験のある教員による授業内容	医療従事者として検査・研究機関に勤務した経験を持つ教員が、医療概論ほかについて教育を行う科目。				

1.目まぐるしく変化する医療の中で満足した職業意識を持ち続ける為に、自己啓発の心掛けと、幅広い医療・医学の知識を柔軟に受け入れ理解する必要がある。早期に職業観を持つ事を目的とする。		No.	日付	授業内容
2. 病める人を単に病気だけでなく総合的に理解できるような医療従事者を目指すために、暖かく相手の身になって考える心が必要であることを理解し、病める人にとっての必要な医療とは何かについて学ぶ。		1	4/15	医学用語 1～4 医学の歴史 紀元前の医療 陰陽五行説 ガレノス
3. 医療施設・医療を支えている職種を知る		2	4/22	医学用語 5～8 医学の歴史 ヴェサリウス インフォームドコンセント、セカンドオピニオン 病気の定義、日本人の死亡原因
2. 目標検定・資格		3	5/13	医学用語 9～12 医学の歴史 パレ 血行障害による病変 進行性・退行性の 変化 炎症 腫瘍 奇形
医療秘書検定 医薬品登録販売者	受験対象 全員	4	5/20	医学用語 13～20 医学の歴史 小川笙船 山脇東洋 杉田玄白 ハンター ジェンナー 華岡青洲
実施日	秘書11/7(土)登販 2027. 9	5	5/27	医学用語 21～24 病気の分類 病気の原因
3. 学習上の留意点		6	6/3	医学用語 25～28 医学の歴史 フランツ・シーボルト
授業は意欲的に参加し、日頃から医療・医学に関わる話題などはチェックする。 別途配布する資料は正しく整理して必ず保管しておくこと。		7	6/10	医学用語 29～32 さまざまな検査 治療 リハビリテーション
4. テキスト		8	6/17	医学用語 33～36 予防医学 マライマリケア ターミナルケア 死について(動画あり)
改訂 医療概論(建帛社) プリント		9	6/24	医学用語 39～42 緩和ケアと尊厳死 医療法の定義 医療提供施設 病院と診療所
5. 成績評価の方法・基準		10	7/1	医学用語 43～44 医学の歴史(野口英世) 医学の歴史(近年)
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は、 追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度 (40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもって、C評価とする		11	7/8	病院の開設者別分類 特定機能病院 地域医療支援病院 広告の制限 医療法人 診療録の保管
		12	7/15	医学用語 45～50
		13	7/22	まとめ 期末試験
		14	7/29	関係法規
		15	7/31 (金)	関係法規
		評価 試験	8	

科名	医薬サポート科	コース名	医事・化粧品アド 医薬品スペシャリスト	学年・クラス	1D
講義名	化粧品 I	回数	講義期間	曜日・時限	教室
		15	通年	木1	302
担当者	滝澤 幸子	実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数
		無	必修	講・演	1
実務経験のある教員による授業内容					

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)		
化粧品の良い悪いを評価するのではなく成分や働きを理解し、目的にあった使い方ができるようになることを目指します。 間違えがちな化粧品や美容の知識のほか、スキンケア・メイクアップ・ボディケア・ネイルケアなどの化粧品の基本的な使い方とお手入れ方法を学びます。 医療機関やドラッグストアなど、就職後に活躍の幅を広げられるほか、自分自身の役立つ知識にもつながります。		No.	日付	授業内容
		1	4/9	間違えがちな化粧品の知識①
2年次 日本化粧品検定2級		2	4/23	間違えがちな化粧品の知識②
		3	4/30	間違えがちな化粧品の知識②
受験対象 全員		4	5/7	お手入れの基本①
		5	5/14	お手入れの基本②
実施日		6	5/21	お手入れの基本③
3. 学習上の留意点		7	5/28	皮膚の構造と仕組み①
3級…間違えがちな化粧の知識について学ぶ 準2級…綺麗を引き出す化粧品の使い方 2級…肌悩みの対策を学ぶ		8	6/4	皮膚の構造と仕組み②
カリキュラムの検定は2級取得を目指しますが、希望があれば1級、特級コスメコンシェルジュの受験にもつなげることができます。		9	6/11	皮膚の構造と仕組み③
日本化粧品検定準2.3級対策テキスト 日本化粧品検定2級テキスト 日本化粧品検定準2.3級対策問題集		10	6/25	皮膚の構造と仕組み④
		11	7/2	肌タイプの見分け方
5. 成績評価の方法・基準		12	7/9	肌悩みの原因とお手入れ①
出席率80%以上必須 期末試験60%未満は追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを考慮し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもってC評価とする		13	7/16	肌悩みの原因とお手入れ②
		14	7/23	肌悩みの原因とお手入れ③
		15	7/30	前期まとめ

科名	医薬サポート科	コース名	医療事務・化粧品アドバイザーコース 医薬品スペシャリストコース	学年・クラス	1D	
講義名	パソコン基礎 I (Word)		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	金・1	203
担当者	坂口 和江		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
			有り	必修	演習	1
実務経験のある教員による授業内容		事務職経験が3年以上ある教員が、パソコン基礎ほかについて教育を行う科目。				

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)				
<p>業務においてWordとExcelは車輪の両輪として多く活用されています。</p> <p>本講義では、コンピュータサービス技能評価試験ワープロ部門2級合格を目指します。</p> <p>パソコンの授業は、聴く力と練習量で確実に身に付きます。復習と入力練習を自己学習でも取り組み、合格を目指してください。</p>		No.	日付	授業内容		
		1	4/10	文字入力 ページ設定 ※USB持参		
		2	4/17	入力 データの取り込み インデント・段組		
		3	4/24	図形描画 画像の挿入、テキストボックス		
		4	5/1	図形描画 地図の作成①		
		5	5/8	図形描画 地図の作成②		
		6	5/22	図形描画 地図の作成③		
		7	5/29	表の作成①		
		8	6/5	表の作成②		
		9	6/12	表の作成③		
		10	6/19	練習問題(文書作成)①		
		11	6/26	練習問題(文書作成)②		
		12	7/3	練習問題(文書の編集・校正)①		
		13	7/10	練習問題(文書の編集・校正)②		
		2. 目標検定・資格		<p>コンピュータサービス技能評価試験ワープロ部門2級 (中央職業能力開発協会)</p> <p>受験対象 全員</p> <p>実施日 2026/8/6(木)(予定)</p>		
3. 学習上の留意点		<p>1回、1回の講義内容が重要です。欠席した部分を改めて補う時間は取れません。健康に留意し、遅刻・欠席の無いように心がけてください。テキストとUSB、筆記用具は必ず持参してください。</p> <p>なお、自宅での学習を並行すると学習結果が大きく異なります。復習時間をできるだけ作ってください。</p>				
4. テキスト		<p>コンピュータサービス技能評価試験ワープロ部門2級 テキスト&問題集 (中央職業能力開発協会)</p>				
5. 成績評価の方法・基準		<p>出席率80%以上必須、検定試験結果60%未満は、追試</p> <p>A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満</p> <p>※検定試験結果の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。</p> <p>※追試については80%の点数をもって、C評価とする</p>				
		14	7/17	模擬試験①		
		15	7/24	模擬試験②		
		評価試験	10			

科名	医薬サポート科	コース名	全コース	学年・クラス	1D	
講義名	スポーツ健康学		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			30	前期	金3・4	施設
担当者	島田 渉		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
			有	必修	講・演	1
実務経験のある教員による授業内容		医療従事者として検査・研究機関に勤務した経験を持つ教員が、スポーツ健康学ほかについて教育を行う科目。				

<p>食べ物から摂取したエネルギーと運動により消費したエネルギーがバランスよく保たれていることが健康の為に良い状態です。しかし食べる量は変わらず、運動を行わないと摂取エネルギーが消費エネルギーを上回り、使われなかったエネルギーは脂肪としてからだに蓄えていきます。将来、このような説明ができるようになるためには、自ら経験することによって、より説得力を身につける。</p> <p>仲間と協調することで地域共創力につながるコミュニケーション力を身につける。</p>	No.	日付	授業内容	
	1	4/10	履修内容についてのガイダンス(HR教室)	
	2	4/17	川合新田体育館 (ソフトバレーボール)	
	3	4/24	川合新田体育館 (バドミントン)	
	4	5/1	会場:未定	
	2. 目標検定・資格	5	5/8	会場:未定
				受験対象
	実施日	6	5/22	会場:未定
	3. 学習上の留意点	7	5/29	会場:未定
	服装については、特に色・デザイン等の指定はないが、運動に適したジャージ類、トレーナー・スウェット類、Tシャツなどを着用すること。	8	6/5	会場:未定
	体育館や競技場は毎回変わります。	9	6/12	会場:未定
	4. テキスト	10	6/19	会場:未定
	参考にして欲しい本や文献に関しては、授業において紹介する	11	6/26	会場:未定
	5. 成績評価の方法・基準	12	7/3	会場:未定
	出席率80%以上必須。 授業参加への積極性と協調性から評価を行う。	13	7/10	会場:未定
	14	7/17	会場:未定	
	15	7/24	まとめ(HR教室)	
	評価 試験	11		

科名	ICTシステムデザイン 医療サポート	コース名	全コース	学年・クラス	ICT / 医薬 合同	
講義名	基礎学力講座 SPI対策		回数	期間	曜日・時限	教室
			30	1年	木4	301
担当者	鈴木詩郎		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講・演	2
実務経験のある教員による授業内容						

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)	
昔から「読み書きそろばん」と言われるように、言葉や計算の基礎は人が社会生活を営む上で必要不可欠な知識であり、「生きる力」の基盤となるものです。この講座では基礎学力や社会常識の定着を図り、自ら考える力の育成を目指します。また就職活動で力を最大限に発揮できるよう支援するのがこの講義の目的です。	授業日	コマ 計画
3. 学習上の留意点	7月2日	1 講座オリエンテーション/計算基礎テスト
①得意な領域を伸ばし、苦手な分野を克服する姿勢で臨むこと。	7月9日	1 一般常識(時事・一般教養)
②テキストや冊子を繰り返し解いて、問題形式に慣れ、1冊の問題集を完全に自分のものにする。	7月16日	1 言語能力: 同義語・対義語
③分からない問題は、中学、高校の教科書を見直したり、人に聞いたりして、基礎理解の確認を怠らないこと。	7月23日	1 言語能力: 二語の関係
4. テキスト	7月30日	1 言語能力: 熟語の構成
『SPI&テストセンター』	9月10日	1 非言語能力: 計算・数的問題(速さ・距離・時間①)
問題演習プリント集	9月17日	1 非言語能力: 計算・数的問題(速さ・距離・時間②)
5 成績評価の方法・基準	9月24日	1 非言語能力: 計算・数的問題(流水算)
①必要出席率90%以上	10月1日	1 中間整理テスト
②中間試験、期末試験	10月8日	1 社会常識: 敬語基礎
③授業態度(学習意欲・小テストなど)	10月22日	1 社会常識: 敬語応用
以上三項目の評価点の合計により60点以上を認定。	10月29日	1 社会常識: 敬語演習
A・・90点以上、B・・70点以上、C・・60点以上、D・・60点未満。	11月19日	1 非言語能力: 計算・数的問題(損益算)
	11月26日	1 非言語能力: 計算・数的問題(濃度算)
	12月3日	1 非言語能力: 計算・数的問題(表の計算)
	12月10日	1 非言語能力: 計算・数的問題(仕事算)
	12月17日	1 非言語能力: 計算・数的問題(分割算)
	1月14日	1 確認テスト
	2027年(金)	
	4月9日	1 言語能力: 語句の意味
	4月16日	1 言語能力: 語句の用法①
	4月23日	1 言語能力: 語句の用法②
	4月30日	1 非言語能力: 論証問題(推論①)
	5月7日	1 非言語能力: 論証問題(推論②)
	5月14日	1 非言語能力: 論証問題(推論③)
	5月21日	1 非言語能力: 論証問題(集合①)
	5月28日	1 非言語能力: 論証問題(集合②)
	6月4日	1 非言語能力: 計算・数的問題(確率)
	6月11日	1 非言語能力: 計算・数的問題(代金精算)
	6月25日	1 総合試験
	合計コマ数	29

科名	医薬サポート科	コース名	医療事務・化粧品アドバイザー		学年・クラス	1D	
講義名	医療保障Ⅱ		回数	講義期間	曜日・時限		教室
			15	後期	月・1		302
担当者	島田 涉		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
			無	必修	講	1	
実務経験のある教員による授業内容	医療従事者として検査・研究機関に勤務した経験を持つ教員が、医療保障ほかについて教育を行う科目。						

		No.	日付	授業内容
1. 我が国は世界一の高齢社会となり、社会保障の構造改革の一環として制定された介護保険法の制度や実務を学習し、医療従事者、社会人としての知識・意識を高める。		1	9/7	医療秘書検定医療保障部門対策 【医療秘書実務】【医療機関の組織・運営、医療関係法規】※第57回 1～50
2. 私たちも高齢者の存在意義、高齢者の理想像を考え、老人福祉の大切さを学ぶ。		2	9/14	医療秘書検定医療保障部門対策 【医療秘書実務】【医療機関の組織・運営、医療関係法規】※第58回 1～50
3. 医療秘書検定の医療保険分野の対策。		3	9/28	医療秘書検定医療保障部門対策 【医療秘書実務】【医療機関の組織・運営、医療関係法規】※第59回 第60回
		4	10/5	医療秘書検定医療保障部門対策 【医療秘書実務】【医療機関の組織・運営、医療関係法規】※第61回 第62回
2. 目標検定・資格		5	10/19	医療秘書検定医療保障部門対策 【医療秘書実務】【医療機関の組織・運営、医療関係法規】※第63回 第〇〇回
医療秘書技能検定	受験対象			
	全員			
実施日	2026/11/7(土)			
3. 学習上の留意点		7	11/2	医療秘書検定医療保障部門対策 【医学的基礎知識⑤領域】
「高齢者に対する思いやりや優しさ」、「介護の安心」など、みんなで考えます。意欲的に参加すること。 11月までは、医療秘書検定対策を実施します検定合格に向けて頑張りましょう！！		8	11/9	医療秘書検定 解答と解説 医療保障部門および医学医療知識 合計特殊出生率 高齢者の定義
		9	11/16	フランスが実施した少子化対策 女性はなぜ男性より長生きするのか
		10	11/30	介護保険制度の目的 介護保険制度の仕組み 介護・介護予防サービスの種類とその概要
4. テキスト		11	12/7	介護保険制度を学ぶにあたり 高齢者の定義 合計特殊出生率 フランスなどが実施した少子化対策
医療秘書技能検定実問題集3級① 医療概論 プリント		12	12/14	介護保険の保険者 保険料の格差 被保険者について 女性はなぜ男性より長生きするのか
5. 成績評価の方法・基準		13	12/21	どうして長野県は日本一の長寿県なのか 介護保険料について
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は、追試 出席率不足は課題提出 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定合格・授業態度・単元小テスト(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもって、C評価とする		14	1/15 (金)	外国人介護士の受け入れ拡大について 友蔵さん
		15	1/18	期末試験 医療保障(介護保険)テスト
		評価試験		

科名	医薬サポート科	コース名	医療事務 化粧品アドバイザー	学年・クラス	1D	
講義名	医療事務 B.C		回数	講義期間	曜日・時限	教室
担当者	滝澤 幸子		60	後期	月2・3・火4・金1	
実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数	備考		
有	必修	講・演	3			
実務経験のある教員による授業内容	医療事務協会においてレセプト作成および講師として勤務した経験がある教員が、医療関連の事務において教育を行う科目。					

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)																																																															
①前期は外来医療を中心に診療報酬算定を学びましたが、さらに入院の算定を学び全般的な理解を深め、医療事務技能認定試験の合格を目指します。診療報酬点数表およびサポートブックを使いこなし、現場感覚で業務ができる力を身につけます。医科全般は広範囲となり、幅広い知識が必要とされますので、点数制度の基礎をきちんと理解します。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>日付</th> <th>授業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">＜9月7日～10月末＞</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td>医療事務技能認定試験対策 ・前期(外来)の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td>・入院料算定 ・学習レポート ・トレーニングブック ・技能認定試験学科問題</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3">医療秘書技能検定試験検定対策</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td>・練習問題および過去問問題集(医療事務分野)</td> </tr> <tr> <td colspan="3">＜10月末～1月19＞</td> </tr> <tr> <td colspan="3">調剤事務知識の習得</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td>・処方箋の知識と調剤報酬の算定</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td>・調剤基本料 ・調剤料 ・薬剤料</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td>・練習問題集</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td>・調剤事務認定実務者試験対策</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>評価試験</td> <td>検定試験代替</td> </tr> </tbody> </table>	No.	日付	授業内容	＜9月7日～10月末＞			1		医療事務技能認定試験対策 ・前期(外来)の復習	2		・入院料算定 ・学習レポート ・トレーニングブック ・技能認定試験学科問題	3			医療秘書技能検定試験検定対策			4		・練習問題および過去問問題集(医療事務分野)	＜10月末～1月19＞			調剤事務知識の習得			5		・処方箋の知識と調剤報酬の算定	6		・調剤基本料 ・調剤料 ・薬剤料	7		・練習問題集	8		・調剤事務認定実務者試験対策	9			10			11			12			13			14			15				評価試験	検定試験代替
No.		日付	授業内容																																																													
＜9月7日～10月末＞																																																																
1			医療事務技能認定試験対策 ・前期(外来)の復習																																																													
2			・入院料算定 ・学習レポート ・トレーニングブック ・技能認定試験学科問題																																																													
3																																																																
医療秘書技能検定試験検定対策																																																																
4			・練習問題および過去問問題集(医療事務分野)																																																													
＜10月末～1月19＞																																																																
調剤事務知識の習得																																																																
5			・処方箋の知識と調剤報酬の算定																																																													
6			・調剤基本料 ・調剤料 ・薬剤料																																																													
7			・練習問題集																																																													
8			・調剤事務認定実務者試験対策																																																													
9																																																																
10																																																																
11																																																																
12																																																																
13																																																																
14																																																																
15																																																																
	評価試験	検定試験代替																																																														
②調剤事務管理士技能認定検定の合格を想定し、調剤薬局の現場で事務が行えるように基本知識を学びます。																																																																
2. 目標検定・資格																																																																
①医療事務技能士認定試験(IBT)	受験対象 全員																																																															
②調剤事務認定実務者試験																																																																
実施日	医事2026年10月末・調剤2027年1月末																																																															
3. 学習上の留意点																																																																
積み重ねの練習が大切です。課題に積極的に取り組むことで理解が深まるため、繰り返しの練習により算定技術を習得します。																																																																
4. テキスト																																																																
医科医療事務テキスト、診療報酬点数早見表、医科試験問題集、調剤報酬事務&レセプト作例集ほか																																																																
5. 成績評価の方法・基準																																																																
出席率80%以上必須 期末試験60%未満は、追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満 検定試験の点数(60%)に、授業態度(40%) 合否・授業態度などを加味し、総合的に判断する。																																																																

科名	医薬サポート科	コース名	医療事務 化粧品アドバイザー	学年・クラス	1D		
講義名	医療事務コンピューター		回数	講義期間	曜日・時限	教室	
			30	後期	月4・金3・4	302	
担当者	滝澤 幸子		実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数	備考
			有	必修	講演	1	
実務経験のある教員による授業内容	医療事務協会においてレセプト作成および講師として勤務した経験がある教員が、医療関連の事務において教育を行う科目。						

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)																																																																																																
<ul style="list-style-type: none"> ・前期で学んだ診療報酬点数制度の仕組みを、コンピューターでも算定できるようにし、更なる理解を深めることを目的とします。また、診療科別の症例を扱い特徴をつかみます。 ・現場でのレセプト作成はコンピューターが主流のため、実践に役立つよう医療用コンピュータの操作を覚え、点数算定のコツと処理能力の速度を磨きます。さらに、医療事務コンピュータ技能検定試験には「医療事務」の分野も出題されることから、診療報酬点数表活用方法もマスターします。 ・電子カルテの流れを体験し、インターンシップに備えます。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>日付</th> <th>授業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td colspan="2"><9月7日～11月13日></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td>・CP操作方法習得</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td>・手書きレセプト(前期)の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td>・「医事コンピュータカルテ問題集」演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td>・過去問題集演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td>・検定対策</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td>・電子カルテの操作習得</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td>外来の診療所、病院、各科ごとの特徴を理解しながら入力を行う。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td>また、診療報酬点数表の仕組みを理解するとともに、入力速度の向上に努める。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td colspan="2">※11/6(金) 医療秘書技能検定試験検定実施日</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>18</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>19</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>20</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>21</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>22</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>23</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>24</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>25</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>26</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>27</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>28</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>29</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>30</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価試験</td> <td></td> <td>検定試験代替</td> </tr> </tbody> </table>	No.	日付	授業内容	1			2	<9月7日～11月13日>		3		・CP操作方法習得	4		・手書きレセプト(前期)の復習	5		・「医事コンピュータカルテ問題集」演習	6		・過去問題集演習	7		・検定対策	8		・電子カルテの操作習得	9		外来の診療所、病院、各科ごとの特徴を理解しながら入力を行う。	10		また、診療報酬点数表の仕組みを理解するとともに、入力速度の向上に努める。	11			12			13	※11/6(金) 医療秘書技能検定試験検定実施日		14			15			16			17			18			19			20			21			22			23			24			25			26			27			28			29			30			評価試験		検定試験代替
No.	日付	授業内容																																																																																															
1																																																																																																	
2	<9月7日～11月13日>																																																																																																
3		・CP操作方法習得																																																																																															
4		・手書きレセプト(前期)の復習																																																																																															
5		・「医事コンピュータカルテ問題集」演習																																																																																															
6		・過去問題集演習																																																																																															
7		・検定対策																																																																																															
8		・電子カルテの操作習得																																																																																															
9		外来の診療所、病院、各科ごとの特徴を理解しながら入力を行う。																																																																																															
10		また、診療報酬点数表の仕組みを理解するとともに、入力速度の向上に努める。																																																																																															
11																																																																																																	
12																																																																																																	
13	※11/6(金) 医療秘書技能検定試験検定実施日																																																																																																
14																																																																																																	
15																																																																																																	
16																																																																																																	
17																																																																																																	
18																																																																																																	
19																																																																																																	
20																																																																																																	
21																																																																																																	
22																																																																																																	
23																																																																																																	
24																																																																																																	
25																																																																																																	
26																																																																																																	
27																																																																																																	
28																																																																																																	
29																																																																																																	
30																																																																																																	
評価試験		検定試験代替																																																																																															
2. 目標検定・資格																																																																																																	
医事コンピュータ技能検定(3級)	受験対象 全員																																																																																																
実施日	11月13日(金)																																																																																																
3. 学習上の留意点																																																																																																	
<ul style="list-style-type: none"> ・操作に携わる回数を増やすことで身につけていくので、わからないことはその場で確認し、積極的に練習問題に取り組みましょう。 ・電子カルテの体験授業もあるので、実践を想定して積極的に参加しましょう。 																																																																																																	
4. テキスト																																																																																																	
医事NaviⅢ操作テキスト																																																																																																	
コンピュータ入力練習用カルテ問題集																																																																																																	
医事コンピュータ技能実問題集①、②																																																																																																	
5. 成績評価の方法・基準																																																																																																	
出席率80%以上必須																																																																																																	
期末試験60%未満は、追試																																																																																																	
A 総合評価 90点以上																																																																																																	
B 総合評価 70点以上、90点未満																																																																																																	
C 総合評価 60点以上、70点未満																																																																																																	
D 総合評価 60点未満																																																																																																	
検定試験の点数(60%)に、授業態度(40%) 合否・授業態度などを加味し、総合的に判断する。																																																																																																	

科名	医薬サポート科	コース名	全コース	学年・クラス	1D
講義名	就職支援		回数	講義期間	曜日・時限
			15	後期	火1
担当者	山田 優子		実務経験の有無	必修・選択	授業形態
				必須	講・演
				単位数	備 考
				1	
実務経験のある教員による授業内容					

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)			
就職活動の基本となる履歴書、エントリーシートを作り、就職活動の実践準備をしていきます。		No.	日付	授業内容	
実践準備内容 ・なりたい自分を知り希望の職業、会社を選定する ・履歴書の作成(後期2回/全5回) ・面接試験対策(後期3回/全5回) ・自己PR対策(全4回) ・選考対策講座 ・合同説明会について		1	9/10	履歴書の作成④	
		2	9/17	自己PR文章の書き方①	
		3	9/24	自己PR文章の書き方②	
		4	10/1	自己PR文章の書き方③	
		5	10/8	自己PR文章の書き方④	
無	受験対象	6	10/22	就活準備・選考対策講座	
実施日		7	10/29	応用ペン字 お礼・お願い・お詫び・お知らせの文章	
3. 学習上の留意点		8	11/5	応用ペン字 手紙文とマナー①ハガキ	
連続した授業ですので、100%の出席を目指してください。		9	11/12	応用ペン字 手紙文とマナー②封書 季語・頭語・結語	
4. テキスト		10	11/19	面接試験の受け方③	
就職ノートファイル	必	11	11/26	就活準備・選考対策講座	
要に応じて資料を配布		12	12/3	合同説明会のまわり方	
5. 成績評価の方法・基準		13	12/10	履歴書の作成⑤	
必要出席率80%以上必須、評価は課題レポートと授業態度(40%以内)で総合的に評価する。 ※やむを得ず欠席した場合、授業内容に応じた課題を提出		14	12/17	面接試験の受け方④	
A 総合評価90点以上 B 総合評価70点以上、90点未満 C 総合評価60点以上、70点未満 D 総合評価60点未満→単位不認定		15	1/14	面接試験の受け方⑤	
		評価試験			

科名	医薬サポート科	コース名	全コース	学年・クラス	1D	
講義名	ビジネス実務 II		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	後期	火1	301
担当者	坂口 和江		実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数
			有	必修	講・演	1
実務経験のある教員による授業内容	事務職経験が3年以上ある教員が、ビジネス実務について教育を行う科目					

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)				
<p>現代の社会や企業から求められるビジネス能力の養成をはかります。社会人として必要となる基本的な知識・マナーを身につけ、就職活動に対応できるレベルに加え、入社後すぐに活躍できるスキルの習得をめざします。</p> <p>自ら考え、行動できること、また「わかる」ではなく「できる」ようになるための実践的な講座です。</p>		No.	日付	授業内容		
		1	9/8	人生100年時代における求められる人材像と学びについて		
		2	9/15	前期リフレクション		
		3	9/29	第1章① 仕事への取り組み方		
		4	10/6	第1章② スケジュール管理と情報整理、仕事とIT(Eメール)の活用、書き方		
		2. 目標検定・資格		5	10/13	第2章① ビジネス文書の種類 その役割と書き方
		ビジネス能力検定3級	受験対象 全員	6	10/20	第2章② 社内文書の種類と作成例 わかりやすい文章の基本
		実施日	2027年1月、後期試験週	7	10/27	第2章③ 社外文書の出し方と電子メール
		3. 学習上の留意点		8	11/10	第3章① 電話対応の重要性
		<p>授業はさまざまなグループワークを導入した展開とするので、積極的な参加が不可欠となります。まずは、理解した内容はグループ全員が共有できるよう教えあうことが大切です。クラスメイトとコミュニケーションを取ること、自分の意見を伝えることを意識的に行ってください。</p>		9	11/17	第3章② 電話対応演習
				10	11/24	第4章 統計・データの読み方・まとめ方
				11	12/1	第5章 情報収集とメディアの活用
		4. テキスト		12	12/8	第6章 会社を取り巻く環境と経済の基本
		ビジネス能力検定3級ジョブパス公式テキスト2026年度版(日本能率協会マネジメントセンター)		5. 成績評価の方法・基準		
		<p>出席率80%以上必須、期末試験60%未満は、追試</p> <p>A 総合評価 90点以上</p> <p>B 総合評価 70点以上、90点未満</p> <p>C 総合評価 60点以上、70点未満</p> <p>D 総合評価 60点未満→単位不認定</p> <p>※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。</p> <p>※追試については80%の点数をもって、C評価とする</p>		13	12/15	検定対策①
14	1/12			検定対策②		
15	1/19			検定対策③		
評価						
試験						

科名	医薬サポート科	コース名	医療事務・化粧品アドバイザー		学年・クラス	2D	
講義名	医療秘書		回数	講義期間	曜日・時限		教室
			15	後期	火・3		302
担当者	島田 涉		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
				必修	講	1	
実務経験のある教員による授業内容		医療機関に勤務した経験を持つ教員が、医療秘書ほかについて教育を行う科目。					

医療事務を含む広義での医療秘書の、医療機関での存在と役割を学び、これからの自分の有るべき姿を考える。あわせて医療法など法規の上立った医療の在り方とともに患者とのコミュニケーションのありかたを学ぶ。		No.	日付	授業内容		
医療秘書検定【医学的基礎知識】に出題される臨床検査の内容も実施する。 医療事務実習、実習前学習も実施する。		1	9/8	臨床検査(一般検査) 医療秘書検定問題		
		2	9/15	臨床検査(血液検査) 医療秘書検定問題		
		3	9/29	臨床検査(生化学検査【肝機能検査・脂質検査】) 医療秘書検定問題		
		4	10/6	臨床検査(生化学検査【腎機能検査・尿酸】) 糖尿病関連検査 医療秘書検定問題		
2. 目標検定・資格		5	10/13	医学英語 医療で使われる略語 第〇回問題		
医療秘書技能検定		受験対象 全員		6	10/20	医療秘書検定医療保障部門対策【医学的基礎知識】※泌尿器、内分泌、細胞
実施日		2026/11/7(土)		7	10/27	医療秘書検定医療保障部門対策【医療秘書実務】【医療機関の組織・運営、医療関係法規】※医療秘書検定問題
3. 学習上の留意点		8	11/10	医療秘書検定問題		
就職をにらみ将来の自分につながることを意識しながら積極的に授業に臨んでください。		9	11/17	業務意識と役割意識 事例での対応①を考える		
4. テキスト		10	11/24	業務意識と役割意識 事例での対応②を考える		
医療秘書検定実問題集①②<つちや書店> 医療事務実習資料 プリント		11	12/1	業務意識と役割意識 事例での対応③④を考える		
5. 成績評価の方法・基準		12	12/8	業務意識と役割意識 事例での対応⑤		
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は、追試 出席率不足は課題提出 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定合格・授業態度・単元小テスト(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもって、C評価とする		13	12/15	医療事務実習オリエンテーション1~6ページ 実習生個人票下書き 実習前学習(職業意識・業界理解)		
		14	1/12	実習生個人票仕上げ 実習医療機関の情報収集		
		15	1/19	インターンシップオリエンテーション 実習ファイル配布		
		評価試験				

科名	医薬サポート科	コース名	全コース	学年・クラス	1D	
講義名	コミュニケーション応用		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	後期	水1	301
担当者	野村 恵美		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
			有	必修	講・演	1
実務経験のある教員による授業内容	メディア出演や執筆、イベント司会、取材などを通し日頃から「人と関わること」に向き合う現役のフリーアナウンサーが、「聴く」「伝える」「関わる」をテーマに講義する。日々の生活を豊かにするためのコミュニケーション能力について考える。					

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)			
<p>前期に引き続き『EQ理論』に基づく「なりたい自分」を意識しながら、「人と話す」「人前で話す」「人の話を聴く」「受けとめ、受け入れる」ことを実践的に学びます。</p> <p>『話す』ことは、伝えること。 『聴く』ことは、理解すること。 より良い人間関係を築くために、伝えることの意義、伝えるために必要な心構えやテクニック、また聴く、理解することの必要性を考えることで、コミュニケーションの苦手意識をなくしていきます。</p>	No.	日付	授業内容	
	2. 目標検定・資格	1	9/9	オリエンテーション
	なし	2	9/16	話し言葉と書き言葉の効果と使い分け
	実施日	3	9/30	伝える声&伝わる声
	3. 学習上の留意点	4	10/7	スピーチ実践「何をどう伝えるか」
	「人前で話す、伝える」「聴く、理解する」ことをスピーチを通して実践的に学んでいきます。 前期より、より自分を表現し、相手を理解するワークを重ね、人との関わりが楽しくなる自分を目指しましょう。	5	10/14	スピーチ実践「伝わる原稿の書き方」
	4. テキスト	6	10/21	スピーチ実践「リアクションの効果」
	EQIアセスメント、レジュメ	7	10/28	「伝える」ということ、「受け取る」ということ
	5. 成績評価の方法・基準	8	11/4	緊張と緊張感
	必要出席率80%以上必須、評価は期末課題レポートと授業態度(40%以内)で総合的に評価する。	9	11/11	ほめる&ほめられる
	A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定	10	11/18	伝える気持ち&受け取る気持ち
		11	11/25	質問力を鍛える！
		12	12/2	声の表現力
		13	12/9	スピーチ実践「自分を評価」
		14	12/16	まとめと振り返り
	15	1/13	期末レポート	
	評価 試験			

科名	医薬サポート科	コース名	医療事務・化粧品アドバイザーコース 医薬品スペシャリストコース	学年・クラス	1D	
講義名	パソコン基礎 I (Excel)	回数	講義期間	曜日・時限		教室
		15	後期	水・2		203
担当者	坂口和江	実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
		有り	必修	演習	1	
実務経験のある教員による授業内容		事務職経験が3年以上ある教員が、パソコン基礎ほかについて教育を行う科目。				

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)				
<p>ビジネスではパソコンを使わない業務はほぼないと言えるほど一般的になっています。授業の中では、あらゆる業務のなかで使用されている”Excel”の技能をコンピュータサービス技能評価試験の2級取得を目標に学習します。問題をこなすだけでなく、合理的にかつ精度の高い処理を行うための講義を行います。</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <p>コンピュータサービス技能評価試験2級(中央職業能力開発協会)</p> <p>受験対象 全員</p> <p>実施日 2027/1/21(木)予定</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>1回、1回の講義内容が濃密です。欠席した部分を改めて補う時間は取れません。健康に留意し、遅刻・欠席の無いように心がけてください。また、テキストとUSBは必ず持参してください。なお、自宅での学習なども並行すると学習結果が大きく異なりますので、復習時間をできるだけ作ってください。</p> <p>4. テキスト</p> <p>コンピュータサービス技能評価試験2級 テキスト&問題集(中央職業能力開発協会)</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>出席率80%以上必須、検定試験結果60%未満は、 追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満 ※検定試験結果の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※追試に合格すれば60%の点数をそのままの評価とし</p>		No.	日付	授業内容		
		1	9/9	課題1 装飾・編集① 条件付き書式		
		2	9/16	課題1 装飾・編集② 条件付き書式		
		3	9/30	課題1 装飾・編集③ 条件付き書式		
		4	10/7	課題3 データ処理① データベースの抽出・集計		
		5	10/14	課題3 データ処理② データベースの抽出・集計		
		6	10/21	課題3 データ処理③ データベースの抽出・集計		
		7	10/28	課題4 グラフ作成① 3D棒グラフ		
		8	11/4	課題4 グラフ作成② 複合グラフ		
		9	11/11	課題4 グラフ作成③ 散布図		
		10	11/18	課題2 関数① 文字列操作関数、検索/行列関数		
		11	11/25	課題2 関数② 文字列操作関数、検索/行列関数		
		12	12/2	課題2 関数③ 論理関数、数学・三角関数、統計関数		
		13	12/9	課題2 関数④ 日付/時刻関数、データベース関数		
		14	12/16	模擬試験①		
15	1/13	模擬試験②				
		評価	試験			

科名	医薬サポート科	コース名	医療事務・化粧品アドバイザー	学年・クラス	1メディカル	
講義名	コンピュータ概論		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	後期	水3	302
担当者	荒井 秀一		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
			有	必修	講・演	1
実務経験のある教員による授業内容		教育機関のシステム担当者の教員が、コンピュータ概論ほかについて教育を行う科目				

医療の世界においてIT化は急速に進んでいる。今後の電子カルテをはじめとした医療業務のIT化に対応するために必要なコンピュータやネットワークの知識を学習する。		No.	日付	授業内容
1. 目標検定・資格		1	9/9	コンピュータの種類 コンピュータの情報表現
		2	9/16	コンピュータの仕組みと動作 コンピュータの5大装置と機能
		3	9/30	コンピュータの仕組みと動作 周辺装置
		4	10/7	コンピュータの仕組みと動作 入出力とインターフェース
2. 目標検定・資格		5	10/14	ソフトウェア 分類とOS
医事コンピュータ技能検定3級	受験対象	6	10/21	ソフトウェア OS
	全員	7	10/28	ソフトウェア アプリケーション(ワープロ)
実施日	11月13日(金)	8	11/4	3級問題演習①
3. 学習上の留意点		9	11/11	3級問題演習②
検定前は3級範囲を中心に講義を進める。検定後については関連知識としてネットワークの分野も学習するが、期末試験範囲なのでしっかりと学んでおくこと。		10	11/18	試験問題の解説
		11	11/25	ネットワークの基礎
4. テキスト		12	12/2	インターネット
改訂医事コンピュータ関連知識 2026年度版医事コンピュータ技能検定3級問題集		13	12/9	表計算ソフトと活用
5. 成績評価の方法・基準		14	12/16	ファイルの種類と保存形式
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は、追試 出席率不足は補講あり A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定可否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもって、C評価とする		15	1/13	期末試験
		評価 試験		

科名	医薬サポート科	コース名	医療事務・化粧品アドバイザー		学年・クラス	1D	
講義名	基礎医学Ⅱ		回数	講義期間	曜日・時限		教室
			15	後期	水・4		302
担当者	島田 涉		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
			有	必修	講	1	
実務経験のある教員による授業内容		医療従事者として検査・研究機関に勤務した経験を持つ教員が、基礎医学ほかについて教育を行う科目。					

<p>医療秘書としても医療事務職としても、よりよい働きをするためには、多くの医学的知識、医学的用語を知っていることが必要です。後期では、知ってなじみ深い病気を取り上げ、臨床病理学・病態学知識を深めます。</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <table border="1"> <tr> <td>医療秘書技能検定</td> <td>受験対象</td> </tr> <tr> <td></td> <td>全員</td> </tr> </table> <p>実施日 2026/11/7(土)</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>日常、病院内で比較的多く経験される病気を取り上げます。それらが日常の仕事の中で生かされるよう、積極的に授業に参加して学習して下さい。</p> <p>4. テキスト</p> <p>改訂 基礎医学(建帛社)プリント 医療秘書検定実問題集①<つちや書店></p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>出席率80%以上必須、期末試験60%未満は、追試 出席率不足は課題提出 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度・単元小テスト(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもって、C評価とする</p>		医療秘書技能検定	受験対象		全員	No.	日付	授業内容
		医療秘書技能検定	受験対象					
			全員					
		1	9/9	医療秘書検定 医学知識対策 心臓 血管 *参考41回・50回問題 ②領域問題も実施				
		2	9/16	医療秘書検定 医学知識対策 血液 *参考39回・40回・48回問題 ②領域問題も実施				
		3	9/30	医療秘書検定 医学知識対策 ③領域問題プリント配布 呼吸器 *参考35・42・45・51回問題 ②領域*呼吸筋も実				
		4	10/7	医療秘書検定 医学知識対策 消化器系 *36・47・49回問題 ②領域Na/Kビタミン、チアノーゼ、歯も実施				
		5	10/14	医療秘書検定 医学知識対策 泌尿器系 *37・46回問題 ②領域問題も実施				
		6	10/21	医療秘書検定 医学知識対策 医学英語 骨・関節 *39・44回問題 ②領域も実施				
		7	10/28	医療秘書検定 医学知識対策 ⑤領域				
		8	11/4	医療秘書検定 医学知識対策 ⑤領域				
		9	11/11	ブドウ球菌、レンサ球菌、結核菌、肺炎球菌				
		10	11/18	ボツリヌス菌、ウエルシュ菌、淋菌、大腸菌				
		11	11/25	腸炎ピブリオ、レジオネラ菌、ヘリコバクターピロリ菌				
		12	12/2	ウイルス				
13	12/9	長野県登録販売者試験 2章 人体の働きと医薬品						
14	12/16	長野県登録販売者試験 2章 人体の働きと医薬品						
15	1/13	期末試験						
		評価 試験						

科名	医薬サポート科	コース名	医事・化粧品アド 医薬品スペシャリスト	学年・クラス	1D		
講義名	化粧品Ⅱ		回数	講義期間	曜日・時限	教室	
			15	通年	月2・木1	302	
担当者	滝澤 幸子 上杉 奈都子		実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数	備考
			無	必修	講演	1D	
実務経験のある教員による授業内容							

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)				
<p><化粧品> 美容皮膚科学に基づいて、肌悩みに合わせたスキンケア・メイクアップ・生活習慣美容・マッサージなど、トータルビューティーを学びます。</p> <p><お花> アレンジメントやインテリア小物の制作を通じて「おもてなし」のアイデアの幅を広げる。様々な素材や道具に触れることで生活の知恵を学ぶ。</p>	No.	日付	授業内容		
	1	9/8	皮膚の構造(前期復習)		
	2	9/11	お手入れの基本(前期復習)		
	3	9/18	肌悩みの原因とお手入れ①		
	4	9/22	肌悩みの原因とお手入れ②		
	5	9/25	肌悩みの原因とお手入れ③		
	6	9/29	肌悩みの原因とお手入れ④		
	7	10/2	肌悩みの原因とお手入れ⑤		
	8	10/6	肌悩みの原因とお手入れ⑥		
	2. 目標検定・資格	9	10/9	肌悩みの原因とお手入れ⑦	
		受験対象	10	10/16	肌悩みの原因とお手入れ⑧
			11	10/20	肌悩みの原因とお手入れ⑨
実施日		12	10/27	インテリアの花 和紙のタペストリー	
3. 学習上の留意点	13	10/30	肌悩みの原因とお手入れ⑩		
<p>3級…間違いがちな化粧の知識について学ぶ 準2級…綺麗を引き出す化粧品の使い方 2級…肌悩みの対策を学ぶ</p> <p>2年次前期に2級の取得を目指します。さらに希望があれば1級「コスメコンシェルジュ(あらゆる肌悩みに対し最適な化粧品を選び出せるプロ)」の受験にもつなげることができるので、幅広い知識を身につけましょう。</p>	14	10/31	肌悩みの原因とお手入れ⑪		
	15	11/6	肌悩みの原因とお手入れ 復習・まとめ		
	16	11/10	肌悩みの原因とお手入れ 復習・まとめ		
	17	11/13	インテリアの花 ドライ素材の壁掛け		
	18	11/17	骨格に合わせたメイクアップ①		
4. テキスト	19	11/20	骨格に合わせたメイクアップ②		
<p>日本化粧品検定準2.3級対策テキスト 日本化粧品検定2級テキスト 日本化粧品検定準2.3級対策問題集 日本化粧品検定2級対策問題集</p>	20	11/27	肌を劣化させる要因①		
	21	12/1	肌を劣化させる要因②		
	22	12/4	クリスマスリース		
	23	12/8	生活習慣美容①		
5. 成績評価の方法・基準	24	12/11	生活習慣美容②		
<p>出席率80%以上必須 期末試験60%未満は、追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満 検定試験の点数(60%)に、授業態度(40%)合否・授業態度などを加味し、総合的に判断する。</p>	25	12/15	生活習慣美容③		
	26	12/18	筋肉・ツボ・リンパ①		
	27	12/19	筋肉・ツボ・リンパ②		
	28	1/8	2級全範囲復習・まとめ		
	29	1/15	テーブルの花 季節のアレンジメント		
	30	1/19	まとめ		
	評価 試験				

科名	医薬サポート科	コース名	医療事務・化粧品アドバイザーコース 医薬品スペシャリストコース		学年・クラス	1D	
講義名	医薬品Ⅱ		回数	講義期間	曜日・時限		教室
			30	後期	木・2 金・2		302
担当者	島田 涉		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備 考
			有	必修	講	2	
実務経験のある教員による授業内容	医療従事者として検査・研究機関に勤務した経験を持つ教員が、医薬品ほかについて教育を行う科目。						

<p>一般用医薬品において用いられる主な有効成分に関して、『効能効果及びその特徴』『飲み方や飲み合わせ、年齢、基礎疾患等、効き目や安全性に影響を与える要因』『起こり得る副作用』等につき理解し、購入者への情報提供や相談対応が出来るようになることを目指す。</p>	No.	日付	授業内容		
	1	9/10(木)	かぜの諸症状、かぜ薬の働き 解熱鎮痛成分、くしゃみ鼻汁を抑える成分、鎮咳成分、去痰成分、*生薬成分		
	2	9/11(金)	かぜ薬(抗炎症成分) 葛根湯・麻黄湯・小柴胡湯・柴胡桂枝湯		
	3	9/17(木)	小青竜湯・桂枝湯、香蘇散・半夏厚朴湯、麦門冬湯 主な副作用 プロスタグランジン		
	4	9/18(金)	解熱鎮痛成分まとめ メカカルバモール		
	5	9/24(木)	鎮痛の漢方 眠気を促す代表的な成分		
	6	9/25(金)	神経の興奮・緊張緩和の生薬 神経質、精神不安、不眠の漢方		
	7	10/1(木)	これまでの漢方25品まとめ 眠気を促す薬まとめ		
2. 目標検定・資格	8	10/2(金)	眠気を防ぐ薬		
登録販売者試験	受験対象	9	10/8(木)	鎮暈薬 小児鎮静薬	
		全員	10	10/9(金)	鎮咳去痰薬
実施日	2027/9/上旬		11	10/16(金)	鎮咳去痰薬 まとめ
3. 学習上の留意点	12	10/22(木)	12	10/22(木)	口腔咽喉薬 含嗽薬
<p>医薬品に関する情報提供、相談対応における実践的なイメージを常に持ち続けて下さい。反復学習は必ず実施して下さい。</p>	13	10/23(金)	13	10/23(金)	制酸薬
	14	10/29(木)	14	10/29(木)	健胃成分 消化成分 胃粘膜保護・修復成分
	15	10/30(金)	15	10/30(金)	消泡成分 胃液分泌抑制成分 漢方(胃) 胃薬まとめ
	16	11/6(金)	16	11/6(金)	腸の不調、薬が症状を抑える仕組み 整腸成分
	17	11/12(木)	17	11/12(木)	ロペラミド塩酸塩 腸内殺菌成分 吸着成分 小腸刺激性瀉下成分
	18	11/13(金)	18	11/13(金)	大腸刺激性瀉下成分 無機塩類 膨潤性瀉下成分 DSS マルチエキス 漢方処方製剤
	19	11/19(木)	19	11/19(木)	瀉下成分まとめ
	4. テキスト	20	11/20(金)	20	11/20(金)
<p>登録販売者研修テキスト(薬事日報社ド-モ)プリント 登録販売者過去問題集</p>	21	11/26(木)	21	11/26(木)	浣腸薬 駆虫薬
	22	11/27(金)	22	11/27(金)	強心薬 高コレステロール改善薬
	23	12/3(木)	23	12/3(木)	貧血用薬 その他の循環器用薬
5. 成績評価の方法・基準	24	12/4(金)	24	12/4(金)	痔の薬
<p>出席率80%以上必須、期末試験60%未満は、追試 出席率不足は課題提出 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度・単元小テスト(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもって、C評価とする</p>	25	12/10(木)	25	12/10(木)	泌尿器用薬 婦人薬(エストラジオールまで)
	26	12/11(金)	26	12/11(金)	婦人薬 内服アレルギー用薬(抗ヒスタミン成分まで)
	27	12/17(木)	27	12/17(木)	鼻に用いる薬
	28	12/18(金)	28	12/18(金)	眼科用薬
	29	1/8(金)	まとめ		
	30	1/14(木)	期末試験		
	評価				
	試験				

科名	医薬サポート科	コース名	医療事務・化粧品アドバイザー 医薬品スペシャリストコース		学年・クラス	1D	
講義名	POP I		回数	講義期間	曜日・時限	教室	
			15	後期	木3	301	
担当者	村松康子		実務経験	必修・選択		単位数	備考
			有り	必修	講・演	1	
実務経験のある教員による授業内容		広告代理店の業務を20年間担当した経験を持つ教員が、POPについて教育を行う科目。					

販売に不可欠であり又差別化対策として重要視されている手書きPOPの基礎を学びます。POPクリエイター技能審査試験の合格を念頭においてお客様の足を止めさせいかに購買に向かわせるか……その為のレイアウト・レタリング・キャッチフレーズ等を学び練習を重ねます。又実店舗のPOP制作や今巷で流行りのブラックボードにも挑戦します。	No.	日付	授業内容		
	1	9/10	販売促進 POP広告についての説明 角ゴシック体(風)を描く為の基本ストロークの練習		
	2	9/17	ゴシック体(風)のカタカナ・数字の練習		
	3	9/24	角ゴシック体(風)のひらがな・アルファベットの練習		
	4	10/1	角ゴシック体(風)のひらがな・アルファベットの練習の続き 簡単なプライスカード作成		
	2 目標検定・資格			角	
	POPクリエイター技能審査試験	受験対象	5	10/8	ゴシック体(風)の漢字練習
	実施日	2027年8月上旬	6	10/22	丸ゴシック体(風)の文字練習 簡単なプライスカード作成
	3. 学習上の留意点		7	10/29	飾ケイ・装飾文字の説明 装飾文字の練習
	レタリング(ゴシック)や紙面上のレイアウトが重要になります。又売ろうとする物や告知する事柄に関しての適切なコピーと時間内にまとめ上げるスピードを身に付ける事が大切です。		8	11/12	レイアウトの基本(レイアウトパターン例) ショーカードの説明の後 簡単なショーカードの作成
	4. テキスト		9	11/19	POP作品を描く (プライスカード・ショーカード)
	販売テキスト		10	11/26	POP作品を描く (ポスター的POP)
	5. 成績評価の方法・基準		11	12/3	キャッチフレーズを考える POP作品を描く
	出席率80%以上 単元毎に小課題提出 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※単元毎の課題+期末試験の評価に授業態度などを加味し、総合的に判断します。 ※追試については80%の点数をもって、C評価とします。		12	12/10	飾ケイ・装飾文字を使ったPOP作品を描き使用時の作品の変化を理解し応用する
			13	12/17	ポスター的POPの作成 (張出添削)
		14	1/14	基礎練習・プライスカード・ショーカードの作成 (張出添削)	
		15	1/21	バレンタイン関連の告知POPの作成	
		評価 試験			

科名	ICTシステムデザイン 医薬サポート	コース名	全コース	学年・クラス	ICT / 医薬 合同	
講義名	基礎学力講座 SPI対策	回数	期間	曜日・時限		教室
		30	1年	木4		301
担当者	鈴木詩郎	実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
			必修	講・演	2	合同授業
実務経験のある教員による授業内容						

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)				
昔から「読み書きそろばん」と言われるように、言葉や計算の基礎は人が社会生活を営む上で必要不可欠な知識であり、「生きる力」の基盤となるものです。この講座では基礎学力や社会常識の定着を図り、自ら考える力の育成を目指します。また就職活動で力を最大限に発揮できるよう支援するのがこの講義の目的です。	授業日	コマ	計画		
3. 学習上の留意点 ①得意な領域を伸ばし、苦手な分野を克服する姿勢で臨むこと。②テキストや冊子を繰り返し解いて、問題形式に慣れ、1冊の問題集を完全に自分のものにする。③分からない問題は、中学、高校の教科書を見直したり、人に聞いたりして、基礎理解の確認を怠らないこと。	7月2日	1	講座オリエンテーション/計算基礎テスト		
	7月9日	1	一般常識(時事・一般教養)		
4. テキスト 『SPI&テストセンター』 問題演習プリント集 5 成績評価の方法・基準 ①必要出席率90%以上 ②中間試験、期末試験 ③授業態度(学習意欲・小テストなど)以上三項目の評価点の合計により60点以上を認定。A・90点以上、B・70点以上、C・60点以上、D・60点未満。	7月16日	1	言語能力:同義語・対義語		
	7月23日	1	言語能力:二語の関係		
	7月30日	1	言語能力:熟語の構成		
	9月10日	1	非言語能力:計算・数的問題(速さ・距離・時間①)		
	9月17日	1	非言語能力:計算・数的問題(速さ・距離・時間②)		
	9月24日	1	非言語能力:計算・数的問題(流水算)		
	10月1日	1	中間整理テスト		
	10月8日	1	社会常識:敬語基礎		
	10月22日	1	社会常識:敬語応用		
	10月29日	1	社会常識:敬語演習		
	11月19日	1	非言語能力:計算・数的問題(損益算)		
	11月26日	1	非言語能力:計算・数的問題(濃度算)		
	12月3日	1	非言語能力:計算・数的問題(表の計算)		
	12月10日	1	非言語能力:計算・数的問題(仕事算)		
	12月17日	1	非言語能力:計算・数的問題(分割算)		
	1月14日	1	確認テスト		
	2027年(金)				
	4月9日	1	言語能力:語句の意味		
	4月16日	1	言語能力:語句の用法①		
	4月23日	1	言語能力:語句の用法②		
	4月30日	1	非言語能力:論証問題(推論①)		
	5月7日	1	非言語能力:論証問題(推論②)		
	5月14日	1	非言語能力:論証問題(推論③)		
	5月21日	1	非言語能力:論証問題(集合①)		
	5月28日	1	非言語能力:論証問題(集合②)		
	6月4日	1	非言語能力:計算・数的問題(確率)		
	6月11日	1	非言語能力:計算・数的問題(代金精算)		
	6月25日	1	総合試験		
	合計コマ数	29			

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポートコース 医薬品スペシャリストコース	学年・クラス	2D	
講義名	栄養学		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	後期	水1・2	403
担当者	伊藤志織(1時間目) 島田渉(2時間目)		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
			有	必修	講・演	3
実務経験のある教員による授業内容		管理栄養士として勤務をした経験のある教員が、栄養学について教育を行う科目。				

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)		
健康づくりの基本となる理想的な食生活を送るために必要な栄養素とその働きを学び、さらに生活習慣病等の予防や改善のための知識について学ぶ。 調理実習では食材の特性や安全性、栄養価を理解し、料理の組み合わせである献立の展開を知りバランスよく食事を知識と体験で会得する。また自立して食事づくりができるよう調理技術を習得する。 授業を通して、栄養学に基づいた食生活の管理術を学ぶ。		No.	日付	授業内容
		1	9/9	オリエンテーション
2. 目標検定・資格		2		
		3	9/16	食生活診断、健康・栄養の現状 食品表示
実施日		4		
		5	9/30	栄養学のための基礎データ 食事バランスガイド (調理実習の説明)
3. 学習上の留意点		6		
		7	10/7	調理実習①(南部勤労者活躍支援センター)
健康に興味を持ち、健康の保持・増進のために自分の食生活を振り返り、健康目標を立てて実践していく。 調理実習では準備から片付けまで実施し、食事づくりの流れを理解する。 【持ち物】 ・毎回…電卓(携帯スマホは不可) ・調理実習…エプロン、バンダナ、ハンカチ		8		
		9	10/14	栄養学の基本とライフステージ別栄養学
4. テキスト		10		
		11	10/21	栄養学の基礎知識① (調理実習の説明)
「栄養学の基本がまるごとわかる辞典」西東社		12		
		13	10/28	調理実習②(南部勤労者活躍支援センター)
5. 成績評価の方法・基準		14		
		15	11/4	栄養学の基礎知識②
出席率80%以上 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※毎時間の課題の評価に、意欲・理解力・授業態度(睡眠・おしゃべり・携帯)等を加味し、きちんと学習している学生が正しく評価されるよう、総合的に判断します。 ※追試については70%の点数をもって、C評価とします。		16		
		17	11/11	栄養学の基礎知識③ (調理実習の説明)
※追試については70%の点数をもって、C評価とします。		18		
		19	11/18	調理実習③(南部勤労者活躍支援センター)
※追試については70%の点数をもって、C評価とします。		20		
		21	11/25	食材の栄養成分と働き①
※追試については70%の点数をもって、C評価とします。		22		
		23	12/2	食材の栄養成分と働き②郷土食 (調理実習の説明)
※追試については70%の点数をもって、C評価とします。		24		
		25	12/9	調理実習④(南部勤労者活躍支援センター)
※追試については70%の点数をもって、C評価とします。		26		
		27	12/16	病気と栄養①
※追試については70%の点数をもって、C評価とします。		28		
		29	1/13	病気と栄養②
※追試については70%の点数をもって、C評価とします。		30		期末試験
		評価試験		

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポートコース 医薬品スペシャリストコース		2D		
講義名	登録販売者総論 I		回数	講義期間	曜日・時限	教室	
			45	前期	月1、火1、水2	403	
担当者	島田 渉		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
			有	必修	講義	4	
実務経験のある教員による授業内容		医療従事者として検査・研究機関に勤務した経験を持つ教員が、登録販売者総論ほかについて教育を行う科目。					

<p>医薬品についての基礎的・専門的知識を理解し、医薬品販売知識を深める。 医薬品、薬の働き、各制度、健康などについて説明のできる本物の登録販売者を目指します。 登録販売者試験、悔いが残らないよう支援するのがこの講義の目的です。</p>		<p>第3章 ・主な医薬品とその作用(1年次からの続き)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 その他の循環器用薬 2 痔の薬 3 その他の泌尿器用薬 4 婦人薬 5 内服アレルギー用薬(鼻炎用内服薬を含む) 6 鼻に用いる薬 7 眼科用薬 8 皮膚に用いる薬 9 歯や口中に用いる薬 10 禁煙補助剤 11 滋養強壮保健薬 12 漢方処方製剤・生薬製剤 13 公衆衛生用薬 14 一般用検査薬 	
2. 目標検定・資格			
<p>医薬品登録販売者</p>	<p>受験対象</p> <p>全員</p>		
<p>実施日</p> <p>2026.9月上旬</p>			
3. 学習上の留意点		<p>第4章 ・薬事関係法規・制度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 薬事法の目的 2 医薬品の分類・取扱い 3 医薬品の販売業の許可 4 医薬品販売に関する法令遵守 	
<p>医薬品の知識、出題頻度の高い項目やポイントは、正確に覚えるためにも反復学習は必ず実施して下さい。 問題集は常日頃が実施し、完全にマスターするようにして下さい。 別途配布する資料は正しく整理して必ず保管しておくこと。</p>		<p>第5章 ・医薬品の適正使用・安全対策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医薬品の適正使用情報 2 医薬品の安全対策 3 医薬品の副作用等による健康被害の救済 4 一般用医薬品に関する主な安全対策 5 医薬品の適正使用のための啓発活動 	
4. テキスト		<p>登録販売者試験対策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人体の解剖と機能 2 薬の働きくみと副作用 3 医薬品の知識 	
5. 成績評価の方法・基準		<p>☆6/1(月)薬学検定 ☆6/18(水)レクリエーション</p>	
<p>出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試</p> <p>A 総合評価 90点以上</p> <p>B 総合評価 70点以上、90点未満</p> <p>C 総合評価 60点以上、70点未満</p> <p>D 総合評価 60点未満→単位不認定</p> <p>※期末試験の点数(60%)に、検定可否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもって、C評価とする</p>			

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポートコース 医薬品スペシャリストコース	学年・クラス	2D	
講義名	基礎ペン字		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	月2	403
担当者	岡澤 由香		実務経験	必修・選択	単位数	備考
				必修	講・演	1
実務経験のある教員による授業内容						

<p>皆さんは今年、自分史上一番綺麗な文字で書類を書かなくてはならない場面に遭遇します。それは皆さんの人生を左右する書類です。自信はいかがでしょうか？</p> <p>『美しく心のこもった手書きの文字』は、皆さんの人間性や感情を率直に表す優れたツールとして、就活において絶大な力を発揮します。</p> <p>この授業では、翌年社会に出てすぐに役立つ硬筆の基本的な書法を学び、ビジネス題材に於いての実践練習を重ねます。特に前期は、就活に重要な美しい履歴書の作成に重きを置いた基礎重点の授業内容とし、社会人として是非知っておきたい書法のマナー等も合わせて学習</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <p>無</p> <p>受験対象</p> <p>実施日</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>授業中だけでなく、日常生活の中でも、意欲的&積極的に、学習意識ある文字を書く姿勢を求めます。</p> <p>4. テキスト</p> <p>書き込み式ボールペン字実用練習帳 和田康子 成美堂出版</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>出席率80%以上 単元毎に小課題提出 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※毎時間の課題の評価に、意欲・理解力・授業態度(睡眠・おしゃべり・携帯)等を加味し、きちんと学習している学生が正しく評価されるよう、総合的に判断します。 ※追試については80%の点数をもって、C評価以上</p>	No.	日付	授業内容	
	1	4/13	自分の字を知ろう 在の実力診断&字のタイムカプセル作成	現
	2	4/20	今だから学べる ひらがなの単体① 美文字はまずひらがなから	
	3	4/27	今だから学べる ひらがなの単体②	
	4	5/11	今だから学べる ひらがなの応用	
	5	5/18	今だから学べる カタカナ・数字のポイント	
	6	5/25	漢字・部首と字形の整え方① 文字には決まった法則がある を理解すると急激に字は上手くなる	美 法則
	7	6/1	漢字・部首と字形の整え方②	
	8	6/8	漢字・部首と字形の整え方③	
	9	6/15	漢字・部首と字形の整え方④	
	10	6/22	漢字かな交じり文・漢数字	
	11	6/29	履歴書対策① 美しい名前のポイント ちばん目を引く箇所を輝かせる	い
	12	7/6	履歴書対策② 住所のポイント	
	13	7/13	履歴書対策③ 頻出用語・実践練習	
	14	7/27	履歴書対策④ 封筒・ハガキの表書き	
15	8/3	前期試験		
	評価 試験			

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポート	学年・クラス	2D	
講義名	地域医療福祉		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	月3	403
担当者	滝澤 幸子		実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数
			有	必修	講・演	1
実務経験のある教員による授業内容		医療事務協会においてレセプト作成および講師、また県障害者支援役員経験のある教員が、医療関連における社会問題の教育を行う科目。				

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)		
医療と連携している介護にも焦点をあて、医療機関スタッフ・患者・住民としての立場から、今後地域がどうあるべきかの問題点と、課題解決に向けて取り組みます。 将来に向け自分たちは何をすべきか、何ができるかを考えていきます。		No.	日付	授業内容
		1	4/13	地域医療や社会問題について①
受験対象		2	4/20	地域医療や社会問題について②
		3	4/27	地域医療や社会問題について③
実施日		4	5/11	地域医療や社会問題について④
		5	5/18	地域医療や社会問題について⑤
3. 学習上の留意点		6	5/25	地域医療や社会問題について⑥
自分自身や家族の生活を振り返り、将来を見据えた提案や行動にもつなげていきますので、幅広い視点から建設的な態度で取り組んでください。		7	6/1	発表・まとめ
		8	6/8	フレイル予防①
4. テキスト		9	6/15	フレイル予防②
プリント		10	6/22	フレイル予防③
		11	6/29	フレイル予防④
5. 成績評価の方法・基準		12	7/6	フレイル予防⑤
出席率80%以上必須 期末試験60%未満は追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを考慮し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもってC評価とする		13	7/13	フレイル予防⑥
		14	7/27	フレイル予防⑦
		15	8/3	発表・まとめ
		評価		
		試験		

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポートコース	学年・クラス	2D	
講義名	基礎医学Ⅲ		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	月4	403
担当者	島田 渉		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
			有	必修	講義	1
実務経験のある教員による授業内容		医療従事者として検査・研究機関に勤務した経験を持つ教員が、基礎医学ほかについて教育を行う科目。				

<p>1年間実施してきた、解剖学(人体の仕組み)、生理学(身体の構造と働き)、病態生理学(病気のメカニズム)、免疫学、検査学、薬理学の総まとめになる。さらなる知識を深めて医薬品登録販売者合格を目指す。</p> <p>前半は、6月上旬に受験する薬学検定対策講座を行う。</p> <p>2. 目標検定・資格 第39回 薬学検定試験</p> <p>受験対象 全員</p> <p>実施日 2026年6月1日(月)or 8日予定</p> <p>3. 学習上の留意点 一問一答を実施し、知識を身に付けます。モチベーションを高く検定に臨んで下さい。別途配布する資料は正しく整理して必ず保管しておくこと。</p> <p>4. テキスト 薬学検定過去問題 登録販売者研修テキスト(薬事日報社ド-モ)プリント</p> <p>5. 成績評価の方法・基準 出席率80%以上必須、期末試験60%未満は、追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもって、C評価とする</p>	No.	日付	授業内容
	1	4/13	授業概要 薬学検定について(出題内容)
	2	4/20	薬学検定対策
	3	4/27	薬学検定対策
	4	5/11	薬学検定対策
	5	5/18	薬学検定対策
	6	5/25	薬学検定試験問題取り組み
	7	6/1	薬学検定試験(当日)
	8	6/8	長野県第2章問題 取り組みと解説
	9	6/15	長野県第2章問題 取り組みと解説
	10	6/22	長野県第2章問題 取り組みと解説
	11	6/29	長野県第2章問題 取り組みと解説
	12	7/6	長野県第2章問題 取り組みと解説
	13	7/13	長野県第2章問題 取り組みと解説
	14	7/27	期末試験
15	8/3	まとめ	
	評価		
	試験		

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポート	学年・クラス	2D	
講義名	医療事務D		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	火3・4	403
担当者	滝澤 幸子		実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数
			無	必修	講・演	1
実務経験のある教員による授業内容		医療事務協会においてレセプト作成および講師として勤務した経験がある教員が、医療関連の事務において教育を行う科目。				

1. 講義の概要と目的		No.	日付	授業内容
<p>医療はサービス業とみなされるようになり、医療機関でも様々な取り組みが行われるようになってきています。一般のサービス業と相違する点を認識し、実践につなげられるよう学びます。</p> <p>患者様中心の医療が求められている現場を想定し、医療現場での様々な接遇を実践します。</p>		1	4/14	インターンシップ反省
		2	4/21	医療現場の課題や問題 グループワーク
		3	4/28	医療接遇マナーの基本①
		4	5/12	医療接遇マナーの基本②
2. 目標検定・資格		5	5/19	医療スタッフに必要なコミュニケーション①
	受験対象 全員	6	5/26	医療スタッフに必要なコミュニケーション②
実施日		7	6/2	医療スタッフに必要なコミュニケーション③
3. 学習上の留意点		8	6/9	電話対応①
<p>社会人になる自分をイメージしながら、ロールプレイングやディスカッションなども取り入れていくので、積極的に参加しましょう。</p>		9	6/16	電話対応②
		10	6/23	電話対応③
		11	6/30	クレーム対応の基本①
4. テキスト		12	7/7	クレーム対応の基本②
5. 成績評価の方法・基準		13	7/14	クレーム対応の基本③
<p>出席率80%以上必須 期末試験60%未満は追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを考慮し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもってC評価とする</p>		14	7/21	グループワーク
		15	7/28	発表
		評価 試験		

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポートコース 医薬品スペシャリストコース	学年・クラス	2D		
講義名	アロマセラピー		回数	講義期間	曜日・時限	教室	
			15	前期	火2	403	
担当者	飯田 泰子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
			有り	必修	講・演	1	
実務経験のある教員による授業内容		アロマショップ経営としての経験を持つ教員が、アロマセラピーについて教育を行う科目。					

<p>自分自身の健康には自分自身で責任を持ち、病気になるための予防が重要視される現代において、体と心双方のケアに有用であるアロマセラピーの知識を身に付けることで自分のみならず、「人を思いやり、癒せる心」を育てること。また、アロマを通して、「自然環境」を大切に思う心を養う。</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <p>JAAアロマコーディネーター アロマ検定1・2級</p> <p>受験対象 希望者</p> <p>実施日</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>実習をしてクラフトをつくります。が、理論の理解の上になつての実習です。講義をよく聴き、正しい使用方法を理解するように勤めてください。想像している以上に内容は深いです。実習ばかりでなく講義にも積極的に参加しましょう。</p> <p>4. テキスト</p> <p>平青学園出版アロマコーディネーター講座</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試</p> <p>A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満</p> <p>※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもって、C評価とする</p>	No.	日付	授業内容
	1	4/14	アロマセラピー概論 (西洋医学と自然療法・アロマの必要性) ★手浴
	2	4/21	精油の抽出法(抽出部位・抽出方法・特徴類以説) ★バスソルト 100g
	3	4/28	香りの歴史(アロマセラピーの歴史)
	4	5/12	精油のブレンド法(キャリアの種類とブレンド計算性) ★トリートメントオイル 50ml
	5	5/19	精油の体への影響(オイルトリートメント・オイルの種類) ★トリートメント実技
	6	5/26	精油の脳への影響(脳の構造と臭覚のしくみ) ★みつろうクリーム 20cc
	7	6/2	精油の心理作用(香りの精神作用とメンタルケア) ★エアーフレッシュナー 30ml
	8	6/9	精油の成分(精油の安全性・禁忌・成分)
	9	6/16	アロマの実践と法令(実務に関わる法令) ★ローション 50cc
	10	6/23	ソープカービング (直線の彫り方 ダリア I)
	11	6/30	ソープカービング (直線の彫り方 ダリア II)
	12	7/7	ソープカービング (ひまわり)
	13	7/14	睡眠の正体(睡眠障害とアロマによるケア) ★ボディーシャンプー 50cc
	14	7/21	免疫力と病気の予防(循環器のケアと免疫系の働き) ★マウスウォッシュ 20ml
15	7/28	理解力試験(ノート参照可)	
	評価 試験		

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポート 医薬品スペシャリスト	学年・クラス	2D	
講義名	サプリメント概論 (予防医学)		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	水1	403
担当者	滝澤 幸子		実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数
			無	必修	講・演	1
実務経験のある教員による授業内容						

1. 講義の概要と目的		No.	日付	授業内容
<p>病気や介護になる前の「予防」の大切さが推奨されるようになってから、世間の意識もだいたい高まっています。医薬品とともにサプリメントがコンビニエンスストアやスーパーなどの一般小売店でも販売されるようになり、大変便利になってきている反面、数ある中から自分に合ったものを選択する知識が必要になってきています。</p> <p>「栄養」「健康」「美容」など、幅広い分野からサプリメントの性質を理解し、病気予防とセルフケアに努める知識を習得します。</p>		1	4/15	サプリメントの需要と必要性
		2	4/22	<栄養素> ビタミン
		3	5/13	<栄養素> ミネラル・糖質
		4	5/20	<栄養素> 脂質・たんぱく質
2. 目標検定・資格		5	5/27	<保健機能食品> 特保・栄養機能食品
薬学検定3級	受験対象 全員	6	6/3	<保健機能食品> 特保・栄養機能食品
実施日	2026/6/7	7	6/10	検定対策
3. 学習上の留意点		8	6/17	生活習慣病予防の食生活①
<p>自分自身の健康や、就職後アドバイザーとなる際の知識になるうえ、登録販売者試験および化粧品検定にも通じる内容です。</p> <p>サプリメントの知識は6月の薬学検定で実力を確認し、検定後は予防医学の知識を学びます。</p>		9	6/24	生活習慣病予防の食生活②
		10	7/1	ライフステージ別の栄養
4. テキスト		11	7/8	病気と栄養①
薬学検定試験(A分野) 公式テキスト		12	7/15	病気と栄養②
5. 成績評価の方法・基準		13	7/22	食育
<p>出席率80%以上必須</p> <p>期末試験60%未満は追試</p> <p>A 総合評価 90点以上</p> <p>B 総合評価 70点以上、90点未満</p> <p>C 総合評価 60点以上、70点未満</p> <p>D 総合評価 60点未満</p> <p>※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを考慮し、総合的に判断する。</p> <p>※追試については80%の点数をもってC評価とする</p>		14	7/29	食の安全と環境
		15	7/31 (金)	まとめ
		評価 試験		

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポートコース	学年・クラス	2D					
講義名	歯科助手		回数	15	講義期間	前期	曜日・時限	水3	教室	403
			実務経験	有	必修・選択	必修	授業形態	講義	単位数	1
担当者	呉羽 かおり		実務経験	有	必修・選択	必修	授業形態	講義	単位数	1
実務経験のある教員による授業内容		歯科衛生士として勤務している経験を持つ教員が、歯科助手ほかについて教育を行う科目。								
1. 講義の概要と目的			6. 講義計画(シラバス)							
歯科診療を円滑に進めるための歯科助手の役割を学びます。歯科治療の基礎を学び、流れを理解することにより、歯科助手技能認定を目指します。 【歯科助手技能認定 教育項目別の時間数】 7. 医学一般 180分 8. 薬学一般 90分 9. 診療録 270分 10. 診療報酬算定の基礎 270分 11. 診療介助 450分			No.	日付	授業内容					
			1	4/15	【医学一般】 口腔解剖と病理					
2. 目標検定・資格			2	4/22	【医学一般】 口腔衛生と予防					
			3	5/13	【薬学一般】 歯科用医薬品の種類と薬効分類 薬物の作用 薬価基準 医薬品の一般名					
歯科助手技能認定 (一般財団法人 日本医療教育財団)			受験対象		【診療録】					
			全員		4	5/20	口腔内の各部位の名称			
実施日			2026/7/29		5	5/27	【診療録】 歯科主要用語、歯科疾患名			
3. 学習上の留意点					6	6/3	【診療録】 検査・疾患名の略称 その他カルテ読解に必要な事項			
歯科治療の流れを理解する事が大切です。実習で実際の材料を扱いますので、積極的に知識技術を学びましょう。					7	6/10	【診療報酬算定の基礎】 歯科診療報酬点数表 症例による点数算定と規定			
					8	6/17	【診療報酬算定の基礎】 歯科診療報酬点数表 症例による点数算定と規定			
4. テキスト					9	6/24	【診療介助】 歯科助手業務の概要 歯科器械・器具の基礎知識 一般診療用器械			
					10	7/1	【診療介助】 歯科薬品・材料の基礎知識			
歯科保険請求マニュアル 令和6年版 歯の知識と請求の実務 医歯薬出版株式会社					11	7/8	【診療介助】 歯科薬品・材料の基礎知識			
5. 成績評価の方法・基準					12	7/15	【診療介助】 介助動作の基礎知識 診療介助における共同動作			
出席率80%以上必須、課題評価60%未満は、追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満 ※課題評価の点数(60%)に、検定合格・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもって、C評価とする					13	7/22	【診療介助】 治療とアシスタント 疾患別治療の流れと使用器材・介助			
					14	7/29	歯科助手技能認定試験			
					15	7/31(金)				
					評価	試験				

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポート	学年・クラス	2D	
講義名	医療事務総論		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	水4	403
担当者	滝澤 幸子		実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数
			有	必修	講・演	1
実務経験のある教員による授業内容		医療事務協会においてレセプト作成および講師として勤務した経験がある教員が、医療関連のコミュニケーションにおいて教育を行う科目。				

		6. 講義計画(シラバス)		
		No.	日付	授業内容
患者様と直接触れ合う医療機関は、数あるサービス業の中でも「究極のコミュニケーション」が必要といわれています。 AIによって医療事務のDX化が急速に進んでおり、人間でしかできない温かいコミュニケーションが一層求められることから、本講座ではレジリエンスを実践しながら、人間関係および業務向上に関わるストレスマネジメントを学びます。		1	4/15	レジリエンスとは
		2	4/22	認知のエクササイズ①
		3	5/13	認知のエクササイズ②
		4	5/20	認知のエクササイズ③
	受験対象	5	5/27	行動のエクササイズ①
実施日		6	6/3	行動のエクササイズ②
3. 学習上の留意点		7	6/10	行動のエクササイズ③
ロールプレイングやディスカッションなども取り入れていくので、積極的に参加しましょう。		8	6/17	情動のエクササイズ①
		9	6/24	情動のエクササイズ②
4. テキスト		10	7/1	情動のエクササイズ③
プリント		11	7/8	総合のエクササイズ①
		12	7/15	総合のエクササイズ②
5. 成績評価の方法・基準		13	7/22	総合のエクササイズ③
席率80%以上必須 期末試験60%未満は、追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度などを考慮し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもってC評価とする		14	7/29	まとめ
		15	7/31 (金)	POP検定
		評価 試験		

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポートコース 医薬品スペシャリストコース	学年・クラス	2D	
講義名	ボディセラピー		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	木1・2	403 222
担当者	丸田 好美		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
			有り	必修	講・実	1
実務経験のある教員による授業内容		リフレクソロジストとして20年間従事した経験を持つ教員が、リフレクソロジーについて教育を行う科目。				

<p>リラクゼーション分野でのフットリフレクソロジーの施術方法を習得すると共に、概論や解剖生理学の講義では、全般的な人体知識を得る。</p> <p>2. 目標検定・資格 リフレクソロジスト(平青学園)</p> <p>受験対象 全員</p> <p>実施日 2026/7/30</p> <p>3. 学習上の留意点 実習は相互実習の形態となり、生徒同士お互いに施術を行うことにより、人体への関心を高め、また、人に対する思いやりや優しさを持って授業に臨んでいただきたい。</p> <p>4. テキスト ナチュラルボディスクール発行 「ボディセラピー ベーシックレッスン」</p> <p>5. 成績評価の方法・基準 出席率80%必須 期末試験(認定試験)60%未満は、追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上90点未満 C 総合評価 60点以上70点未満 D 総合評価 60点未満 * 期末試験の点数(60%)に、検定合格・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。 * 追試については80%の点数をもって、C評価とする</p>	No.	日付	授業内容
	1	4/9	オリエンテーション 概論講義 解剖生理学講義
	2	4/23	フットリフレクソロジー実技練習
	3	4/30	フットリフレクソロジー実技練習
	4	5/7	フットリフレクソロジー実技練習
	5	5/14	フットリフレクソロジー実技練習
	6	5/21	フットリフレクソロジー実技練習
	7	5/28	フットリフレクソロジー実技練習
	8	6/4	フットリフレクソロジー実技練習
	9	6/11	フットリフレクソロジー実技練習
	10	6/25	フットリフレクソロジー実技練習
	11	7/2	フットリフレクソロジー実技練習
	12	7/9	ボランティア活動
	13	7/16	フットリフレクソロジー実技練習
	14	7/23	フットリフレクソロジー実技練習
15	7/30	試験	
	評価		
	試験		

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポートコース 医薬品スペシャリストコース	学年・クラス	2D		
講義名	POP II		回数	講義期間	曜日・時限	教室	
			15	前期	木3	301	
担当者	村松 康子		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
			有り	必修	講・演	1	
実務経験のある教員による授業内容		広告代理店の業務を20年間担当した経験を持つ教員が、POPについて教育を行う科目。					

販売に不可欠であるPOPの手書きの基礎を学びます。他店との差別化をはかりお客様の足を止めさせ、いかに購買に向かわせるか・・・その為のレタリング・レイアウト・キャッチフレーズ等を学び練習を重ねます。最近巷で流行りのブラックボードにも挑戦します。	No.	日付	授業内容		
	1	4/9	ポスター的POPの書き方のレクチャー 作品を仕上げる		
	2	4/23	レタリングの復習練習 プライスカード作成		
	3	4/30	装飾文字をマスターする		
	4	5/7	装飾文字使用ショーカード プライスカード作成		
	2. 目標検定・資格		5	5/14	実際の店舗依頼のPOPの作成に挑戦 張出鑑賞
	POP広告クリエイター技能審査試験	受験対象 全員	6	5/21	実際の店舗依頼のPOP作成 プライスカード・ショーカード
	実施日	2026/7/31(金)	7	5/28	ブラックボード使用 作品作成 作品鑑賞(課題提供)
	3. 学習上の留意点		8	6/4	ブラックボード使用 作品作成 作品鑑賞(課題自由)
	レタリングや紙面上のレイアウトが重要になります。又、売ろうとする物や告知する事柄に関しての適切なコピーを考え短時間内にまとめ上げるスピードを身に着けることが大切です。		9	6/11	POP検定学科問題 答え合わせ レタリング練習
	4. テキスト		10	6/25	POP検定学科問題 答え合わせ 装飾文字のマスター
	販売促進テキスト		11	7/2	ショーカード・プライスカード作成
	5. 成績評価の方法・基準		12	7/9	A3サイズポスター的POP作成
	出席率80%以上必須、 出席・授業態度・提出物により評価します。		13	7/16	POP検定学科問題 答え合わせ 実技不得意なものの強化
			14	7/23	POP検定実技模擬試験
		15	7/30	不得意なものの強化 試験に際しての持ち物等説明、質疑応答	
		評価 試験			

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポート 医薬品スペシャリスト	学年・クラス	2D	
講義名	化粧品Ⅲ		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	通年	前期 金1 後期 火3.4	403
担当者	滝澤 幸子		実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数
			無	必修	講・演	1
実務経験のある教員による授業内容						

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)			
<p>化粧品の良し悪しを評価するのではなく成分や働きを理解し、目的にあった使い方ができるようになることを目指します。</p> <p>間違えがちな化粧品や美容の知識のほか、皮膚の構造や肌悩みに対する化粧品の選び方などを習得していきます。</p> <p>医療機関やドラッグストアなど、就職後に活躍の幅を広げられるほか、自分自身の役立つ知識にもつながります。</p>		No.	日付	授業内容	
		1	4/10	ポイントメイク	
		2	4/17	肌を劣化させる要因 外的要因・内的要因	
		3	4/24	肌を劣化させる要因 外的要因・内的要因	
		4	5/1	生活習慣美容、筋肉・ツボ・リンパ	
		5	5/8	生活習慣美容、筋肉・ツボ・リンパ	
		6	5/22	2級まとめ	
		7	5/29	サプリメント・栄養素 まとめ	
		8	6/5	サプリメント・栄養素 まとめ	
		9	6/12	化粧品 成分の知識	
		10	6/19	化粧品 成分の知識	
		11	6/26	化粧品 成分の知識	
		12	9/8	化粧品に種類と特徴	
		13	9/8	化粧品に種類と特徴	
		14	9/15	化粧品に種類と特徴	
15	9/15	まとめ			
2. 目標検定・資格		受験対象 全員			
日本化粧品検定2級					
実施日		2026年5/24			
3. 学習上の留意点					
2級…肌悩みの対策を学ぶ・ 1級…成分や中身を理解し見分ける知識を学ぶ					
1年生から継続して学んできた内容の復習も含め、検定2級取得を目指します。希望があれば1級、特級コスメコンシェルジュ(あらゆる肌悩みに合わせた提案ができる)の受験にもつなげることができます。					
4. テキスト					
日本化粧品検定2.3級対策テキスト 日本化粧品検定2.3級対策問題集					
5. 成績評価の方法・基準					
出席率80%以上必須 期末試験60%未満は追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを考慮し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもってC評価とする					

科名	医薬サポート科	コース名	医療事務・化粧品アドバイザー	学年・クラス	1D	
講義名	医療保障 I		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	前期	水3	303
担当者	島田 渉		実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
			有	必修	講義	1
実務経験のある教員による授業内容	医療従事者として検査・研究機関に勤務した経験を持つ教員が、医療保障ほかについて教育を行う科目。					

		No.	日付	授業内容
<p>日本では国民の誰もが必要な時に適切な医療を受ける権利を保障するために様々な制度が創設されています。</p> <p>特に、医療機関(調剤薬局を含む)で取り扱う機会が多い医療保険制度を重点に、「健康保険制度」「後期高齢者医療制度」、「公費負担医療制度」、「労働者災害補償保険制度」を学び、医療機関の受付に必要な知識を学びます。</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <p>関連の検定は、「医療事務」「調剤事務」「歯科助手」</p> <p>受験対象 全員</p> <p>実施日</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>医療関連機関で働くものとして知らなければいけない知識です。新しい名称が多く、覚えることは大変ですが、現場ですぐ必要な知識です。積極的に授業に参加し知識を深め、人に伝えられるようにして下さい。</p> <p>4. テキスト</p> <p>改訂 医療概論(建帛社)プリント</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>出席率80%以上必須、期末試験60%未満は、追試</p> <p>A 総合評価 90点以上</p> <p>B 総合評価 70点以上、90点未満</p> <p>C 総合評価 60点以上、70点未満</p> <p>D 総合評価 60点未満</p> <p>※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。</p> <p>※追試については80%の点数をもって、C評価とする</p>		1	4/15	民法と保険診療の関係 ①医療保険制度ってなんだろう？
		2	4/22	②医療保険にはどんな種類がある？ ※被用者保険
		3	5/13	②医療保険にはどんな種類がある？ ※国民健康保険
		4	5/20	③医療保険で何をしてもらえる？ ・年齢・所得で違う患者負担
		5	5/27	・償還払い・任意継続被保険者 ④医療保険が使えない場所ってどんなとき？ 例まで
		6	6/3	・保険外併用療養費
		7	6/10	・復習
		8	6/17	⑤公費負担医療制度
		9	6/24	* 検定問題 ・主な公費負担医療制度
		10	7/1	* 検定問題 ⑥労働者災害補償保険制度
		11	7/8	* 検定問題 ⑦高額療養費制度
		12	7/15	日本の医療費医療費上昇理由と対策および今後の課題
		13	7/22	⑧医療保険制度まとめ 社会保険について 日本の医療保険 医療保険のしくみ
		14	7/29	まとめ
		15	7/31 (金)	期末試験
評価試験	7			

科名	ICTシステムデザイン 医療サポート	コース名	全コース	学年・クラス	ICT / 医薬 合同	
講義名	基礎学力講座 SPI対策	回数	期間	曜日・時限		教室
		30	2年	金2		301
担当者	鈴木詩郎	実務経験	必修・選択	授業形態	単位数	備考
			必修	講・演	2	合同授業
実務経験のある教員による授業内容						

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)					
昔から「読み書きそろばん」と言われるように、言葉や計算の基礎は人が社会生活を営む上で必要不可欠な知識であり、「生きる力」の基盤となるものです。この講座では基礎学力や社会常識の定着を図り、自ら考える力の育成を目指します。また就職活動で力を最大限に発揮できるよう支援するのがこの講義の目的です。	授業日	コマ	計画			
3. 学習上の留意点 ①得意な領域を伸ばし、苦手な分野を克服する姿勢で臨むこと。②テキストや冊子を繰り返し解いて、問題形式に慣れ、1冊の問題集を完全に自分のものにする。③分からない問題は、中学、高校の教科書を見直したり、人に聞いたりして、基礎理解の確認を怠らないこと。	7月12日	1	講座オリエンテーション/計算基礎テスト			
	7月19日	1	一般常識(時事・一般教養)			
4. テキスト 『SPI&テストセンター』 問題演習プリント集 5 成績評価の方法・基準 ①必要出席率90%以上 ②中間試験、期末試験 ③授業態度(学習意欲・小テストなど)以上三項目の評価点の合計により60点以上を認定。A・90点以上、B・70点以上、C・60点以上、D・60点未満。	7月26日	1	言語能力:同義語・対義語			
	9月6日	1	言語能力:二語の関係			
	9月13日	1	言語能力:熟語の構成			
	9月20日	1	非言語能力:計算・数的問題(速さ・距離・時間①)			
	9月27日	1	非言語能力:計算・数的問題(速さ・距離・時間②)			
	10月4日	1	非言語能力:計算・数的問題(流水算)			
	10月18日	1	中間整理テスト			
	10月25日	1	社会常識:敬語基礎			
	11月1日	1	社会常識:敬語応用			
	11月15日	1	社会常識:敬語演習			
	11月22日	1	非言語能力:計算・数的問題(割合と比)			
	11月29日	1	非言語能力:計算・数的問題(塩水問題)			
	12月6日	1	非言語能力:計算・数的問題(表の計算)			
	12月13日	1	非言語能力:計算・数的問題(仕事算)			
	1月10日	1	非言語能力:計算・数的問題(分割算)			
	1月17日	1	確認テスト			
	2026年					
	4月10日	1	言語能力:語句の意味			
	4月17日	1	言語能力:語句の用法①			
	4月24日	1	言語能力:語句の用法②			
	5月1日	1	非言語能力:論証問題(推論①)			
	5月8日	1	非言語能力:論証問題(推論②)			
	5月22日	1	非言語能力:論証問題(集合①)			
	5月29日	1	非言語能力:論証問題(集合②)			
	6月5日	1	非言語能力:計算・数的問題(確率)			
	6月12日	1	非言語能力:計算・数的問題(代金精算)			
	6月19日	1	総合試験			

科名	医薬サポート科	コース名	医療事務・化粧品アドバイザーコース 医薬品スペシャリストコース		学年・クラス	
講義名	卒業研究		回数	講義期間	曜日・時限	
			120	後期	月～金(時間割参照)	
担当者	島田 渉		実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数
				必修	講演	4
実務経験のある教員による授業内容						

1. 講義の概要と目的		6. 講義計画(シラバス)																						
<p>2年間を見つめ直し自己の学業生活の仕上げとなるようにテーマを考え、それをもとに「調査・研究」を行い論文の作成をします。 <40ページ以上> 習得した知識・技術を総合的に発揮させましょう。</p> <p>※すでに内定し職場実習をしている場合は、実習日誌とレポート(1200字以上)の提出を代替とします。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>日付</th> <th>授業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>9月7日(月)</td> <td>4時間目 ・オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9月28日(月)</td> <td>4時間目 ・テーマ、構成決定締切</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10月26日(月)</td> <td>4時間目 ・クラス内中間発表</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11月30日(月)</td> <td>4時間目 ・論文仕上げ 締切日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12月14日(月)</td> <td>4時間目 ・パワーポイント完成</td> </tr> <tr> <td></td> <td>令和8年1月20日(水)</td> <td>301教室 ・医薬サポート科 卒業研究発表会</td> </tr> </tbody> </table>		No.	日付	授業内容		9月7日(月)	4時間目 ・オリエンテーション		9月28日(月)	4時間目 ・テーマ、構成決定締切		10月26日(月)	4時間目 ・クラス内中間発表		11月30日(月)	4時間目 ・論文仕上げ 締切日		12月14日(月)	4時間目 ・パワーポイント完成		令和8年1月20日(水)	301教室 ・医薬サポート科 卒業研究発表会
No.	日付	授業内容																						
	9月7日(月)	4時間目 ・オリエンテーション																						
	9月28日(月)	4時間目 ・テーマ、構成決定締切																						
	10月26日(月)	4時間目 ・クラス内中間発表																						
	11月30日(月)	4時間目 ・論文仕上げ 締切日																						
	12月14日(月)	4時間目 ・パワーポイント完成																						
	令和8年1月20日(水)	301教室 ・医薬サポート科 卒業研究発表会																						
2. 目標検定・資格		受験対象																						
実施日																								
3. 学習上の留意点																								
<p>これまでの「覚える学習」から「自分で考えて作り出す学習」となるため、自分の課題をしっかりと計画実行をしましょう。</p> <p>※途中で内定、実習になった場合はその時点で進行状況を鑑み対処します。</p>																								
4. テキスト																								
5. 成績評価の方法・基準																								
<p>出席率80%以上必須 期末試験60%未満は追試 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満 ※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを考慮し、総合的に判断する。 ※追試については80%の点数をもってC評価とする</p>																								

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポート 医薬品スペシャリスト	学年・クラス	2D	
講義名	手話		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	後期	月2	403
担当者	千野 裕子		実務経験	必修・選択	単位数	備 考
			有	必修	講・演	1
実務経験のある教員による授業内容		県登録手話通訳者として従事した経験のある教員が、手話について教育を行う科目。				

<p>聴覚障がい及び聴覚障がい者について知り、合わせて、コミュニケーション方法の多様性を学びます。その上で、特に『手話』を日常言語としている聴覚障がい者への対応として、手話の基礎表現と、医療・接客などの生活場面に応じた簡単な手話スキルを身につけ、コミュニケーション能力アップを図ります。</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <p>無</p> <p>受験対象</p> <p>実施日</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>手話は視覚言語(=視ることば)です。相手が視てわかりやすい動作や表情を工夫して積極的に、楽しく表わしてみましょう。また、「今耳に入っている情報がかしこまなかったら・・・?」、と、ふだんから聴覚障がい者に対する関心を持つように心がけましょう。</p> <p>4. テキスト</p> <p>プリント 「手話で必見! 医療のすべて<外来編>」</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>出席率80%以上 単元毎に小課題提出 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定 ※単元毎の課題+期末試験の評価に授業態度などを加味し、総合的に判断します。 ※追試については80%の点数をもって、C評価とします。</p>	No.	日付	授業内容
	1	9/7	・手話で挨拶 ・自己紹介
	2	9/14	<基礎知識> 聴覚障がい者へのユニバーサルサービス ①
	3	9/28	<基礎知識> 聴覚障がい者へのユニバーサルサービス ②
	4	10/5	<手話へのアプローチ> 伝えあってみよう ・指文字 ・数字
	5	10/19	<手話の基本> ① ・名前 ・家族
	6	10/26	<手話の基本> ② ・趣味 ・仕事
	7	11/2	上野先生 聴覚障がい者と医療
	8	11/9	<手話の基本> ③ ・住所
	9	11/16	<場面別 手話の会話> 1 基本の会話
	10	11/30	<場面別 手話の会話> 2 病院・診療所での会話 ①
	11	12/7	上野先生 聴覚障がい者にやさしい接客
	12	12/14	<場面別 手話の会話> 3 病院・診療所での会話 ②
	13	12/21	<場面別 手話の会話> 4 薬局での会話
	14	1/15 (金)	復習 ①医療手話 ②接客手話
15	1/18	期末試験 実技:手話3分間スピーチ レポート:テーマは後日	
評価 試験			

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポートコース 医薬品スペシャリストコース	学年・クラス	2D
講義名	パワーポイント (word卒論作成)	回数	講義期間	曜日・時限	教室
		15	後期	月3	203
担当者	坂口 和江	実務経験	必修・選択	授業形態	単位数
		有り	選択	演習	1
実務経験のある教員による授業内容	事務職経験が3年以上ある教員が、パソコン基礎ほかについて教育を行う科目。				

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)			
<p>この講義では、卒論の作成に向けて、Wordの設定や卒業研究発表の際に使用するプレゼンテーションソフトであるパワーポイント(Power Point)の技能を習得します。</p> <p>授業の中では作成技能、資料作成の工夫の仕方、発表態度も含め習得します。</p> <p>プレゼンテーションは自己満足では伝えたい内容が伝わりません。伝えたいことを正しく、分かりやすく簡単に聞き手に届くような作り方を提案していきます。</p>	No.	日付	授業内容	
	1	9/7	研究論文のページ設定、目次設定等 (Word)	
	2	9/14	〃	
	3	9/28	パワーポイント プレゼン資料の作成 基本①	
	4	10/5	パワーポイント プレゼン資料の作成 基本②	
	5	10/19	パワーポイント プレゼン資料の作成 基本③	
	2. 目標検定・資格	6	10/26	パワーポイント 視覚的に効果のあるスライドとは
			受験対象	
	実施日	7	11/2	著作権等について
	3. 学習上の留意点	8	11/9	SmartArt、スライドマスターの活用
	欠席した部分を改めて補う時間は取れません。健康に留意し、遅刻・欠席の無いように心がけてください。 また、USBは必ず持参してください。	9	11/16	パワーポイント 卒業研究スライドの作成①
	4. テキスト	10	11/30	パワーポイント 卒業研究スライドの作成②
	テキストは都度プリントを準備します。 綴じるためのファイルがあると便利です。	11	12/7	パワーポイント 卒業研究スライドの作成③
	5. 成績評価の方法・基準	12	12/14	パワーポイント 卒業研究スライドの作成④
	<p>出席率80%以上必須、期末試験60%未満は追試</p> <p>A 総合評価 90点以上</p> <p>B 総合評価 70点以上、90点未満</p> <p>C 総合評価 60点以上、70点未満</p> <p>D 総合評価 60点未満→単位不認定</p> <p>※発表の出来栄点(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断します。</p>	13	12/21	卒業研究前チェック 発表時の心構え
14		1/15	卒業研究発表前直前リハーサル	
15		1/18	卒業研究発表前直前リハーサル	
	評価 試験			

科名	ICTシステムデザイン科	コース名	全コース	学年・クラス	2A		
講義名	ライフプランニング		回数	講義期間	曜日・時限	教室	
			15	後期		203	
担当者	相馬豊恒(9/9~10/14) 山田優子(10/21~11/18) 清水利朗(11/26~1/13)		実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数	備 考
				選択	講義	1	
実務経験のある教員による授業内容							

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)		
<p>「働く」がいよいよ間近に迫ってきました。これまでの学生生活とは全く異なる生活が始まります。そんな生活のために「知っておかなければならないこと」、「やっておかなければならないこと」を3つのテーマごとに3人の先生から学びます。それらの学びはすべて人生の教科書になるものばかりです。</p>	No.	日付	授業内容
	1	9/9	★経済の仕組み 第1回 経済とは何か なぜお金を使うようになったか
	2	9/16	第2回 需要と供給 GDP
	3	9/30	第3回 経済のグローバル化 為替
	4	10/7	第4回 政府の役割 税金・年金
	5	10/14	第5回 企業の役割と経営
	6	10/21	★知っておきたい法律やお金の知識 第1回 労働法 (長野県産業労働部 北信労政事務所)
	7	10/28	第2回 税金のはなし (税理士会)
	8	11/4	第3回 資産形成のはなし (税理士会)
	9	11/11	第4回 年金のはなし (長野南年金事務所)
	10	11/18	第5回 お金の話 J-FLEC(金融経済教育推進機構)
	11	11/25	★働く直前講座「こうやって働くんだけ！」 第1回 正社員であることと転職を考える
	12	12/2	第2回 働く環境の変化とこれから
	13	12/9	第3回 働くは楽しい
	14	12/16	第4回 働くを楽しくさせる3つのポイント
15	1/13	第5回 自分にとっての働く目標を定める	
2. 目標検定・資格	受験対象		
無			
実施日			
3. 学習上の留意点			
4. テキスト			
5. 成績評価の方法・基準	評価試験		
授業出席率トータル80%以上 欠席・遅刻は社会人としての大きな学びを学べない大きなマイナスであると自覚してください。授業態度・小テスト・課題などを加味して期末に総合的に評価します。			

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポートコース 医薬品スペシャリストコース	学年・クラス	2D	
講義名	応用ペン字		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	後期	火2	403
担当者	岡澤 由香		実務経験	必修・選択	単位数	備考
				必修	講・演	1
実務経験のある教員による授業内容						

<p>前期の基礎的な硬筆の学習をふまえ、社会に出て即時に役立つ事例での、より応用的な書法・マナーを学びます。 様々な場面を想定した実践練習を重ね、慌てずに自信を持って対応できる即応力を身に付けます。</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <p>文部科学省後援 筆書写技能検定 場:長野県教育会館(長野市相模1098) 実施日:令和8年11月8日(日)、令和9年2月上旬</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>前期の授業で習得した技術を元に、学校の授業中だけでなく普段の日常生活の中でも意欲的&積極的に学習意識ある文字を書く姿勢を求めます。</p> <p>4. テキスト</p> <p>書き込み式ボールペン字実用練習帳 成美堂出版 和田康子</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>出席率80%以上 単元毎に小課題提出 A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満 ※毎時間の課題の評価に、意欲・理解力・授業態度(睡眠・おしゃべり・携帯)等を加味し、きちんと学習している学生が正しく評価されるよう、総合的に判断します。 ※追試については80%の点数をもって、C評価以上とする。</p>	No.	日付	授業内容	
	1	9/8	前期課題の返却と指導 アルファベット イムカプセル中間開封 筆順の原則・大型封筒・難熟語①	タ
	2	9/15		
	3	9/29	FAX送信状・資料送付状	
	4	10/6	ビジネス伝言メモ 詞・カード・DMの添え書き	名
	5	10/13	招待状の返事とマナー 電話応対	
	6	10/20	連綿の基礎・難熟語②・宅急便送付状 日本語検定	
	7	10/27	お礼・お願い・お詫び・お知らせの文章	
	8	11/10	手紙文とマナー①ハガキ	
	9	11/17	手紙文とマナー②封書 季語・頭語・結語	
	10	11/24	ビジネス年賀状・掲示文	
	11	12/1	硬筆総復習課題・硬筆書写検定課題 筆ペン①基本の筆運び	
	12	12/8	筆ペン②様々な課題を筆ペンで	
	13	12/15	筆ペン③熨斗紙・祝儀・不祝儀袋・芳名帳	
	14	1/12	後期試験一後期の総合課題	
15	1/19	期末課題の返却と指導 ン字のタイムカプセル開封・評価	ペ	
	評価試験			

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポート 医薬品スペシャリスト	学年・クラス	2D	
講義名	ケアコミュニケーション		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	後期	水3・4	403
担当者	滝澤 幸子		実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数
			有	必修	講演	1
実務経験のある教員による授業内容		県委託障害者通訳・コーディネーターとして従事し、県役員として勤めたことのある教員が、要約筆記を含む幅広いコミュニケーションができるための教育を行う科目。				

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)		
ケアが必要な方を対象に、ひとりひとりのニーズに合わせたコミュニケーションの必要性を学びます。 就職現場など、公私ともに難聴や聞こえの悪い人と関わる機会が増えていくことを想定し、要約筆記の基礎を学び、筆談で通訳できるスキルを習得します。それと併せ、物事の要点をまとめる力をつけることで、ビジネスのスキルUPにもつなげます。	No.	日付	授業内容
	1	9/9	要約と筆談の違いとポイント 難聴者とのコミュニケーション方法
2. 目標検定・資格	2	9/16	要約と筆談の違いとポイント 難聴者とのコミュニケーション方法
	3	9/30	筆記の3原則
3. 学習上の留意点	4	10/7	筆記の3原則
	5	10/14	読みやすい表記①
4. テキスト	6	10/21	読みやすい表記②
	7	10/28	話し言葉の要約①
5. 成績評価の方法・基準	8	11/4	話し言葉の要約②
	9	11/12	表記のポイント①
出席率80%以上必須 ・現場を想定したコミュニケーションおよび筆談ができるレベルに到達させる。 ・授業態度、実習内容等により総合的に評価する。	10	11/18	表記のポイント②
	11	11/25	筆記実習①
・現場を想定したコミュニケーションおよび筆談ができるレベルに到達させる。 ・授業態度、実習内容等により総合的に評価する。	12	12/2	筆記実習②
	13	12/9	筆記実習③
評価 試験	14	12/16	筆記通訳体験①
	15	1/13	筆記通訳体験②

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポートコース	学年・クラス	2D	
講義名	患者看護論			講義期間	曜日・時限	教室
				後期	木1	403
担当者	酒井 京子			回数	必修・選択	授業形態
				15	選択	講
実務経験のある教員による授業内容	看護師として病院勤務している経験を持つ教員が、看護学について教育を行う科目。					

医療チームの一員としての看護補助業務と役割を理解し、患者への基本的対応の仕方を身につける。		No.	日付	授業内容
		1	9/10	看護助手概論 ・看護とは ・看護助手とは ・看護助手の業務と責任の範囲 ・チーム医療における看護助手の役割
		2	9/17	看護助手の職業倫理 ・職業倫理 ・接遇 ・個人情報保護
		3	9/24	医療に関わる制度と法律 ・医療保障制度 ・医療に関わる法律
		4	10/1	人体の解剖生理 ・骨格・筋肉・消化器・泌尿器・感覚器系
2. 目標検定・資格		5	10/8	人体の解剖生理 ・呼吸器・循環器・脳神経・バイタルサイン
看護助手実務能力検定試験	受験対象	6	10/22	障害・疾病の理解
	全員	7	10/29	リスクマネジメント
3. 学習上の留意点		8	11/12	感染防止対策
テキストを中心に学習する		9	11/19	薬物の知識
		10	11/26	ターミナルケア
4. テキスト		11	12/3	基本技術 ① ・ボディメカニクス ・環境に関する業務
看護助手実務能力認定試験公式テキスト		12	12/10	基本技術 ② ・移動・移乗介助
5. 成績評価の方法・基準		13	12/17	基本技術 ③ ・食事介助 ・口腔ケア
出席率80%以上必須、期末試験60%未満は、追試		14	1/8 (金)	基本技術 ④ ・清潔介助 ・排泄介助
A 総合評価 90点以上		15	1/14	期末試験
B 総合評価 70点以上、90点未満				
C 総合評価 60点以上、70点未満				
D 総合評価 60点未満				
※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度(40%)などを加味し、総合的に判断する。				
※追試については80%の点数をもって、C評価とする				
		評価試験		

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポート 医薬品スペシャリスト	学年・クラス	2D	
講義名	健康管理学		回数	講義期間	曜日・時限	教室
			15	通年	木2	405
担当者	滝澤 幸子		実務経験の有無	必修・選択	授業形態	単位数
			無	必修	講演	1
実務経験のある教員による授業内容						

1. 講義の概要と目的	6. 講義計画(シラバス)		
<p>過度なストレス、食生活の乱れ、運動不足等が原因となる生活習慣病の多様化や、高齢化の進行が医療費の増加を招き、大きな社会問題になっています。そのため、地域や企業、家庭において健康管理の知識と意識を言及し、健康を守る大切さが見直されています。</p> <p>人生100年時代も想定し、「予防医学のスペシャリスト」として、健康管理に関する正しい知識を習得します。</p>	No.	日付	授業内容
	1	9/10	健康管理学①
	2	9/17	健康管理学②
	3	9/24	生活習慣病の基礎知識①
	4	10/1	生活習慣病の基礎知識②
	5	10/8	生活習慣病の基礎知識③
	6	10/15	生活習慣病の基礎知識④
	7	10/29	心の健康管理①
	8	11/12	心の健康管理②
	9	12/19	心の健康管理③
	10	12/26	生活環境と健康①
	11	12/3	生活環境と健康②
	12	12/10	生活環境と健康③
	13	12/17	身体を守る健康知識①
	14	1/8	身体を守る健康知識②
15	1/14	まとめ	
2. 目標検定・資格	受験対象		
実施日			
3. 学習上の留意点	自分自身や家族の生活を振り返り、将来を見据えた提案や行動にもつなげていきますので、幅広い視点から建設的な態度で取り組んでください。		
4. テキスト	プリント		
5. 成績評価の方法・基準	出席率80%以上必須		
	・授業態度、実習内容・レポート等により総合的に評価する。		
	評価	試験	

科名	医薬サポート科	コース名	メディカルサポートコース 医薬品スペシャリストコース	学年・クラス	2D					
講義名	登録販売者総論Ⅱ		回数	30	講義期間	後期	曜日・時限	金2・3	教室	403
			実務経験	有	必修・選択	必修	授業形態	講演	単位数	4
担当者	島田 渉									
実務経験のある教員による授業内容		医療従事者として検査・研究機関に勤務した経験を持つ教員が、登録販売者総論ほかについて教育を行う科目。								
1. 講義の概要と目的			6. 講義計画(シラバス)							
<p>・2年間の医薬品や登録販売者の学習のまとめとして、お客様や身近な人にも医薬品の説明や健康アドバイスができるよう必要とされる知識を深めていき生涯の知識とする。</p> <p>2. 目標検定・資格</p> <p>登録販売者試験</p> <p>受験対象</p> <p>実施日</p> <p>3. 学習上の留意点</p> <p>医薬品に関する情報提供、相談対応における実践的なイメージを常に持ち続けて下さい。 反復学習は必ず実施して下さい。 総得点84点以上で合格ですが、各項目毎に一定割合以下(35%)の場合は不合格になってしまいます。苦手科目をつくらずに学習していきましょう。</p> <p>4. テキスト</p> <p>登録販売者研修テキスト 登録販売者問題集</p> <p>5. 成績評価の方法・基準</p> <p>出席率80%以上必須、期末試験60%未満は、追試 出席率不足は課題提出</p> <p>A 総合評価 90点以上 B 総合評価 70点以上、90点未満 C 総合評価 60点以上、70点未満 D 総合評価 60点未満→単位不認定</p> <p>※期末試験の点数(60%)に、検定合否・授業態度・単元小テスト(40%)などを加味し、総合的に判断する。</p> <p>※追試については80%の点数をもって、C評価とする。</p>			No.	日付	授業内容					
			1	9/11	第1回模擬試験(解説) 問1～問60					
			2	9/18	" (解説) 問61～問120					
			3	9/25	第2回模擬試験(解説) 問1～問60					
			4	10/2	" (解説) 問61～問120					
			5	10/9	第3回模擬試験(解説) 問1～問60					
			6	10/16	" (解説) 問61～問120					
			7	10/23	第4回模擬試験(解説) 問1～問60					
			8	10/30	" (解説) 問61～問120					
			9	11/6	第5回模擬試験(解説) 問1～問60					
			10	11/13	" (解説) 問61～問120					
			11	11/20	第6回模擬試験 (解説) 問1～問60					
			12	11/27	" (解説) 問61～問120					
			13	12/4	第7回模擬試験 (解説) 問1～問60					
			14	12/11	" (解説) 問61～問120					
15	12/18	まとめ								
			評価	試験						